

Gunma University Faculty of Medicine



群馬大学 医学部 入学案内 **2020**

医学科・保健学科

群馬大学医学部長

石崎 泰樹



群馬大学医学部は北関東における医学・保健学教育と研究の中心として、医学科では多くの医師、医学研究者、医療行政者などを育成し、保健学科では看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士などを育成してきました。医学部附属病院は、地域医療の中核として社会に貢献しています。重粒子線医学センターでは、2010年より日本の大学に最初に設置された世界最先端のがん治療装置を用いて重粒子線治療を開始しました。

医学科は、生命や人体の構造と機能を追求し、疾病の本態を解明し、それを克服するための方策を探究するとともに、優れた人間性をもつ医師や最先端の医学研究者を養成することを主な目的としています。保健学科は、総合的で先進的な保健学教育・研究を展開することを通して、保健医療の専門職として確固たる倫理観と豊かな人間性を持ち、社会的使命を果たすことのできる医療人の育成を目的としています。

医療の現場では、医師と医師以外のスタッフから構成されるチームで患者さんの診療に当たります。群馬大学医学部は、医師を養成する医学科と医師以外のスタッフを養成する保健学科が同じキャンパス内にあります。医学科の学生と保健学科の学生は共通の講義もあり、2018年からは両方の学科の学生がともに参加するチームワーク実習を充実化しました。また、クラブ活動も両方の学科の学生が参加しています。これらにより、医学部では卒後に医師と医師以外のスタッフが密接に連携し、より良質な医療を提供することを目指しています。

医学部では国際交流にも力を入れています。アメリカ合衆国、ドイツ、モンゴル、台湾、インドネシア、タイ、コロンビア、ニカラグアなどの大学とは、学部学生が国際間交流を行なっています。国際的に医療人として活躍しようと考えている人はかりでなく、多くの学生諸君が先進国や途上国の医療情勢を体験し、外国の医学系の知人と情報を交換し国際感覚を培うことは、将来的にも有用で意義深いことです。医学部では今後も国際交流の充実を進めていきます。

医師として、あるいは看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士として、また医学・保健学の研究者として、人類の福祉のために貢献したいと願う人は是非、群馬大学医学部で学ぶことを考えてください。



重粒子線照射施設の内部 シンクロトロン加速器

群馬大学医学部の強みを生かした次世代教育

司会進行 © 群馬大学医学部保健学科 教授 内田 陽子

医学科と保健学科からなる群馬大学医学部。最先端の研究が進む医学科、世界初の取り組みを進める保健学科という魅力あふれる医学部を率いる医学科長と保健学科長、そしてそこで学ぶ現役大学生が、医学部の取り組みや学び、充実の学生生活とそれが後に与える意義について話しました。

最先端研究盛んな医学科 世界初WHO認定CC(コラボレーションセンター[※])保健学科

※WHOが手掛ける各種事業を専門的、技術的に支援するためにWHO各地域事務局長から指定された機関

—— 医学科・保健学科長から大学の強みを
ご紹介ください。

石崎 医学科の強みのひとつとして、最先端の医学研究を行っているということが挙げられます。まず、ドイツのハイデルベルク大学に次いで世界で2番目、今のところ日本で唯一の重粒子線治療装置を有している大学です^(※)。重粒子線関係の研究が進んでいるということが、最先端のがん治療につながっています。次に、神経系及び内分泌・代謝系の研究も非常に盛んであるということ。昭和キャンパスの中にある生体調節研究所の先生には大学院の医学系研究科の協力講座として、教育にも参加していただいています。さらに、群馬大学の伝統である感染症研究ですね。感染症を引き起こす代表的な病原体として細菌、ウイルス、寄生虫がありますが、どの研究も熱心ですめられています。

※ 2020年8月から山形大学医学部で稼働予定

—— 保健学科はいかがですか？

横山 保健学科の強みは、まず看護、検査技術、理学、作業の4つの専攻があるとい



うこと。医療系の学部を持つ国公立大学は全国に50大学あり、そのすべてに看護学専攻はありますが、複数の専攻を有している大学は半数ほどしかないのです。群馬大学は、保健学科が4年制になった1997年から、多職種専攻と一緒に勉強し、お互いを尊重しながら実習することを続けています。それをさらにアップさせたのが、2008年に作った日本インタープロフェッショナル教育機関ネットワーク(Japan Interprofessional Working and Education Network: JIPWEN)です。これは群馬大学だけではなく、全国10の大学が同じ目的のもとで多職種間協働医学教育について一緒に相談しながら進めていこうという組織。さらに、それを元に2013年、WHOに働きかけて、WHOの課題を实践する施設としてコラボレーティングセンター(WHOCC)の指定を受けました。保健人材育成部門で認定されたのは、本学科が世界で初めてなんです。今までは保健学科内だけで続けて

いた人材育成ですが、昨年は医学科の先生にも協力していただき、医学科の全学生に何らかのかたちで多職種連携教育に携わっていただいています。多職種連携教育は、お互いに職業を意識して、相手が何をやっているか、自分たちがどうしたら協力できるかを勉強するのはもちろんですが、医療安全という面からも非常に大事なことです。医療安全にチーム医療や多職種連携は欠かせません。私たちも最初からそれを意図していたわけではないのですが、結果的にそれが全国的にも注目されることになりました。チーム医療、多職種連携保健学科だけではなく、ぜひ私たちの、群馬大学医学部の強みとして伸ばしていきたいと考えています。

群大独自の医学科MD-PhDコース 保健学科のキーワードは国際と地域

—— 実際の教育での特徴を教えてください

けますか？

石崎 研究力のある医療人、もしくは、基礎研究医の育成を目指してMD-PhDコースを設けているということですね。これは、ひとりで説明すると医師と医学博士を並行して目指せるコース。研究に興味のある学生が医学科の授業は通常通り受けて、放課後や夏休み期間中に研究室での活動に参加するというシステムです。大学院の講義の先取り履修もできるのも大きな特徴。群馬大学大学院医学系研究科に入学した場合、学部生時代に履修した科目が単位として認定されます。しかも、MD-PhDコースにエントリーし卒業時にコース修了が認定されれば、大学院に入ったときに、所定の単位を取得したうえで学位論文を完成すると、3年で修了し^(※)、医学博士の学位を取得できるという大きなメリットがあります。昨年度、私の研究室で指導した学生の2人は共に3年で医学博士の学位を取得。今は、脳外科の医師として現場で活躍しながらも

研究を続けています。

※基本的に医学系の大学院は、4年で修了

—— 他大学では聞かないシステムですね。

石崎 群馬大学独自のものです。本学で学んだ多くの学生さんに大学院に進学して、高度な学びを身につけてほしいということからこのような仕組みを作ったのです。また、学部生の地域貢献という点で近年では、地域の病院での実習を増やしています。今までは臨床の実習先は、群大附属病院が多かったのですが、地域の医療機関がどういふのかを学生のうちに知っていただき、卒業後、そこに就職しやすくなるという目論見で学外実習を増やしました。

—— 保健学科の実際の教育はいかがでしょう？

横山 チームワーク医療の実習については、先ほど申し上げたとおりです。ほかに、保健学科の特徴を表すキーワードとして国際



と地域が挙げられます。群馬大学では、以前からモンゴルやタイなど発展途上の大学と一緒に研究協力をしてきました。こちらから教員が出向いて行って指導したり、向こうから学生や教員が来ていただいたりしています。また、地域では、群馬大学は県内唯一の国立大学ですから、地域で活躍できる人材を育てる取り組みをしています。5年ほど前から推し進めているのが、地域での暮らしや看取りまでを見据えた人材育成プログラム「群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー」。これは、文部科学省GP「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に申請して、全国66件の申請の中から選ばれたものです。地域で生まれ育って病気になるたら地域の病院にかかり、場合によっては自宅でそれをフォローする、つまり自分が一番住み慣れたところで一生過ごすために、私たち医療人がどういふことができるか、どうやったらそれを進めていけるかを、特に看護が中心となって、教育や卒後の研修にあたっています。

—— 全国的にも早い段階で専門看護師の育成にも取り組んでいますね。

横山 4年制を卒業した段階では、まだスタートライン。その上で専門分野を作って、自分を生かした専門性を高めていくためには、より高度な教育が必要です。その仕組みのひとつに専門看護師という資格があります。群馬大学は、県内唯一の専門看護師教育機関。全国的にも早くから取り組んでいます。現在、がん・慢性疾患・老年・母性という4つの領域で実践しています。全国に先駆けて専門看護師の教育を行うことで、今もたくさんの看護師が群馬大学で自分の専門性を高めて実際の現場で活躍しています。県内から入ってくる看護師が比較的多いので、地域貢献という意味でも役に立っているのではないのでしょうか。



医学科長

石崎 泰樹 (いしざき やすき)

- 昭和56年 東京大学医学部医学科卒業
- 昭和60年 東京大学大学院医学系研究科修了
- 昭和60年 岡崎国立共同研究機構生理学研究所特別協力研究員、日本学術振興会特別研究員
- 昭和62年 東京医科歯科大学歯学部附属顎口腔総合研究施設助手 (～平成9年)
- 平成 3年 ロンドン大学ユニヴァーシティカレッジ生物学部客員研究員 (～平成6年)
- 平成 9年 神戸大学医学部助教授
- 平成13年 群馬大学医学部助教授
- 平成15年 群馬大学大学院医学系研究科助教授
- 平成16年 群馬大学大学院医学系研究科教授
- 平成29年 群馬大学医学部長

群馬大学大学院医学系研究科長
群馬大学教育研究評議会評議員

● 医学博士

学生のうちから高まる医師になる意識、楽しくてあつという間の実習期間

——先生方から素晴らしい教育について伺いました。医学科と保健学科を代表する2人の学生さんにもお話を伺いたいと思います。その前に自己紹介と、群馬大学を志望した理由を教えてください。まずは医学科の磯貝さん。地元群馬県のご出身ですね。

磯貝 はい。高崎高校出身で、医学科5年生です。部活はスキー部に所属しています。大学の実習が4年の冬から始まって、今は

外科診療センターで呼吸器外科の実習中です。小さい時から医師を目指していたのと、出身が群馬なので群馬大学を志望したのは、ある意味自然の流れでした。群馬で医者をするなら地元の大学で学んだ方がいいと思っていましたし、私自身、小さい時に附属病院にお世話になった経験も影響しています。学校が終わって、その日のうちにスキーに行き帰るといった環境も好都合。特別、県外に行く必要も感じませんでした。ちなみに、妹も群馬大学で作業療法学を専攻しています。

——ありがとうございます。では、次に保健学科を代表して看護学専攻の島田さん。県外のご出身ですね。

島田 はい。山形県米沢市の出身です。看護学専攻の4年生で、今は卒業研究や就職活動をしています。保健師の選抜コースにも入っていて、6月にはその実習や講義があります。地元の国立大学でも看護学を学べますが、私があえて群馬大学を志望したのは、国際交流も盛んで、海外研修もたくさんあったから。国際看護に興味がある私には、とても魅力的な内容でした。グローバルに活躍するための海外研修がある一方で、地域に根差した看護も学べることも魅かれた理由のひとつです。

——実際に入学してみた感想はいかがですか？

磯貝 勉強は決して楽ではありませんが、楽しいですね。1年生は一般教養と医学の講義を並行しながら受けます。2～3年で専門科目になると結構大変ですが、まわりの友人に触発されて一緒に頑張りました。4年の冬から臨床実習が始まり、とても楽しい毎日を送っています。今は外科で実習中です。このあと、スキルラボセンターでの手技の練習が待っています。学生でありながら、実際の患者さんに問診をしたり、手術に立ち会ったり、と現場のことが勉強できるのは貴重だと思います。学生のうちから「将来医師になるんだ」と自覚できる教育がなされていると思いますね。放射線科の実習で重粒子線の施設を見せてもらい、どのようなプランを立ててどのような治療するか、ということも勉強できるので、そこは群馬大学ならではの強みだと思います。横のつながりができたのも群馬大学ならではの。私が所属しているスキー部は、保健学科の学生もいるので友だちの幅が広がります。普段の何気ない会話の中から、他専攻のことも知れるようになります。

——磯貝さんには久しぶりに会いましたが、ずいぶん成長したなと思いました。充実した教育を受けて頑張っている様子がよくわかります。島田さんはいかがですか？

島田 1年生のときは医学科と同じで、一般教養と並行して週に2回、看護の講義がありました。2年になると一般教養はなくなります。すべて看護の専門科目で座学の講義も多く、テストもいっぱいあるのでとても大変だと思いました。3年の前期から演習が始まって実際にグループワークをして考えることが多くなってくると、やっと看護の勉強をしているんだなと実感できるようになりました。実習が始まったのは、3年の後期から。実習は大変そうだと思っていましたが、実際に行ってみると1日1日が早くてあつという間に終わってしまいました。グループのみんなで協力して仲良くできて、良かったと思っています。実習

中は、みんなで「何時まで集中して頑張ろう」と励まし合いながらやっていたので大変だったけれど、ためになったし、何より楽しくできました。

——高校時代に抱いていた大学や大学生活と、実際のギャップはありますか？

磯貝 意外だったのは、想像していたよりも堅くないということ。医師という堅いイメージがありましたが、全然違いますね。先生方も楽しそうに和気あいあいとされていて、そういう雰囲気は医療の安全にもつながるのかなと思っています。また、先生と学生の距離が近いですね。群馬大学はチューター制度があって、いろいろなことを気軽に先生に相談できます。時々、食事に連れて行っていただくこともあります。友だちも、気さくな人ばかりです。大変なテストもあるし、覚えることも膨大なので、効率よく勉強する方法を考えながら、みんなで進めています。

島田 私は、それほどギャップは感じませんでした。テストの大変さも想像どおり。高校時代と勉強の仕方が変わり、友だちと一緒に協力しながらすることが増えました。図書館は、申請すれば24時間使えます。これは、他の学校の友だちからとても驚かれます。家に帰って少し休んでから、図書館に来て勉強することもできるので、メリハリをつけるにも最適。話しながら勉強できる共有スペースもあるので助かっています。友だちと問題を出し合ったり、声に出して読んで覚えたりできるのが気に入っています。

医療の質と安全を高める多職種連携。医学、保健、薬学で理想的な実習

——医学科の教育で工夫されている点を教えてください。

石崎 先ほど、磯貝さんがおっしゃったように、1年生のころから医療の現場に触れる機会を設け、医学部に入ったんだということを自覚してもらうようにしています。それが勉強につながると思うんですね。



保健学科長

横山 知行 (よこやま ともゆき)

- 昭和60年 信州大学医学部医学科卒業
- 昭和60年 群馬大学医学部附属病院第二内科医員(研修医)
- 平成 3年 ベイラー医科大学リサーチフェロー(循環器内科)
- 平成 5年 群馬大学医学部附属病院医員(第二内科)
- 平成11年 群馬大学医学部附属病院助手(第二内科)
- 平成13年 群馬大学医学部附属病院講師(第二内科)
- 平成14年 群馬大学大学院医学系研究科保健学専攻教授
- 平成23年 群馬大学大学院保健学研究科教授
- 平成25年 群馬大学教育研究評議会評議員
- 平成31年 群馬大学医学部保健学科長、群馬大学大学院保健学研究科長

● 医学博士

また、横山先生からお話が合ったように、附属病院での医療事故があったときに明らかになった問題点を解析していく中で、非常に大事であることがわかった多職種連携に、さらに力を入れるようになりました。これまでも保健学科と医学科の学生と一緒に講義を受けることはありましたが、それをできるだけ増やすよう、カリキュラムを改訂しているところです。医療事故が明らかになった後、医療の質・安全学講座を新設し、教授として聖路加国際病院の小松康宏先生をお迎えしました。医療の質と安全を高めていく——必要条件の一つとして多職種連携の強化があり、これは附属病院だけの問題ではなく、学生の教育の時点からスタートしなければなりません。多職種連携は保健学科が1歩も2歩も進んでいます。後を追いつながら教育を進めたいと考えています。

——MD-PhDコースも特徴的です。

石崎 このコースでは、研究マインドを持つ臨床医と、少数ではあっても基礎研究を養成したいと思っています。いずれにしても今向かい合う患者さんの治療ということだけではなく、先の時代の医療を考えられる医療人を育成したいと考えています。

——保健学科で教育の工夫点はいかがでしょう？

横山 せっかくですから、チーム医療について少しお話ししましょう。保健学科で進めているチーム医療は、具体的にはチームワーク原論と実習、座学と実習の2本立になっています。座学ではチームワークについて勉強するのですが、実習のときは、看護・理学・作業・検査という4つの専攻が全員入るようなグループを作ります。1グループ10人くらいですね。そして、ひとつのテーマについてディスカッションしながら勉強していきます。さらに実際に県内のいろいろな医療機関、もちろん群馬大学



医学部医学科5年
磯貝 康太 (いそがい こうた)
平成27年 群馬県立高崎高等学校卒業
平成27年 群馬大学医学部医学科入学

医学部附属病院もそうですが、それ以外に県内の保健医療機関に向向いて、実際の症例を見たり、現場で働いている職員と一緒にディスカッションしたりしながら、どうチームワーク医療が必要なのか、現場でどうすることがなされているのか、身をもって体験します。その後、それを大学に持ち帰って発表会を開きます。この一連を半年かけてやるわけですが、実際に体験としてチーム医療を学んでいくのは素晴らしい方法だと思っています。

——最近では、グループに医学部の学生さんにも加わっていただいていますね。

横山 そうなんです。医学科は人数が多いので、残念ながら全員が実習に行くところまでできないのですが、何らかのかたちで全員がチームワーク実習に行けるような仕組みができるのもっといいと思いますね。2年前からは、高崎健康福祉大学の薬学部も入っています。薬学部さんもチームワーク医療には欠かせない存在ですからね。保健、薬学、医学で、さらに素晴らしいチームワーク医療ができるのではないかと期待しています。

学生のうちから学ぶ職種ごとに異なる視点 全部署で医療安全に尽力

——その教育は学生さんにとってどんなメリットがあると実感していますか？

磯貝 チームワーク実習をすることで、学生のうちから職種ごとの異なる視点を学べます。これはよい勉強になっていると思います。

島田 私の実習グループは、医学科も薬学部の方もいましたので、実際にほかの職種の考えに触れることができました。医療事故についてどう考えるか、というテーマでディスカッションをしたときに印象に残っているのは、それぞれの職種で意見が出てきたこと。実習では、みんなで病院に行き、いろいろな部署を見学しました。普段看護の実習では見ない薬剤部や医事課など、患者さんと直接触れ合うのではなく、病院を裏で支える部署でも医療安全のための取り組みをしていることや、気を付けていることが見られて興味深かったし、大変勉強になりました。

愛ある医療人にみんなを引っ張り、まとめるリーダーに

——先生方から、次世代を担う群大医学部学生さんに、どんなことを期待していますか？

石崎 昨年の4月に東京で閣僚級世界患者安全サミットが開催されました。これは、各国や国際機関のリーダーに医療安全(Patient Safety)の重要性を浸透させることを目的としたもので、アジアで初めて、日本で開催されました。ここに参加された方の一部をお招きして、群馬会館でシンポジウムを開催し、Patient Safetyについてお話をいただきました。その中でイギリスのPatient Safetyの重鎮であるマイク・ダーキン先生が「最終的に医療の質を確保する秘訣は『愛』だ」とおっしゃったことが非常に印象に残っています。ですから、私が期待する次世代を担う群大医学部学生には、愛のある医療人になってほしい、ということ

ですね。

横山 しばらく前ですが、文科省からミッションの再定義というのがありました。全国にある保健医療系の国立42大学を8のグループに分けたのですが、群馬大学は、千葉大学、東北大学、筑波大学などとともに「実践科学の学術的追求を通じた次世代指導者・教育者・研究者養成」というグループになりました。単に地域で活躍する人材を育成するだけでなく、そこからさらに全国や世界に発信できる研究者や教育者を育てなさい、というグループに選ばれたのです。ですから、私たちは単に群馬県で活躍する医療人に留まらず、さらにその上、それぞれの専門分野で引っ張っていき、リーダーになってほしいですね。実際に、群馬県は保健医療系の大学が多いです。看護では7大学、リハビリも4校。全国的に見ても、この県の規模でこれだけ医療系の大学があるのは珍しいのです。その中で群馬大学の卒業生に、今後、何を求められるか、と言うとやはりリーダーなんですね。各医療機関で引っ張っていく、そのためには自分の専門職を磨くのはもちろんですが、スタッフをまとめていくコミュニケーション能力やチームワーク医療ができる能力を、ぜひ身につけていただきたい。その手助けが少しでもできればと思っています。

——愛のある、そして次世代リーダーを期待するという話がありましたが、期待に応えられそうですか？

磯貝 大丈夫です。

島田 はい、頑張ります。

広く深い知識を活用し 国際看護のリーダーに

——では、将来の夢を教えてください。

磯貝 入学したときは、総合診療に憧れていたのですが、いざ入っているいろいろな科を回ってみるとどの先生もみんなカッコよく見えてしまって。でも、どの科に行っても目の前の患者さんを助けられるようになりたいと思います。今は、学生でまだ専門知識もないので広く、そして深く、いろ

いろな知識を身につけられたらと思っています。

島田 私はもともと地域だけでなく、国際に興味があるので、国際看護を頑張りたいと思います。卒業研究も国際看護の研究室に配属され、これから看護の総合実習で、タイに実習に行くことになっています。自分が興味のあることや、やりたいことをとことんやってリーダーになれたらいいと思います。

医療を通じて社会に貢献でき 仲間もつくれる魅力的な環境

——群馬大学での学びで、大きな夢が現実できそうです。では、最後に、受験生に向けてメッセージをお願いしますか？

石崎 医療を通じて社会に貢献するという志を持った人に、是非進学していただきたいですね。

横山 群馬大学の特徴は、保健学科では4つの専攻があつてさらに医学科もある。群馬大学全体では教育、理工、社会情報とあるので、学習や部活をとおしているいろいろな人と知り合う機会が多いですね。これは将

来的に非常に大きな財産になると思います。私自身、学部が多い信州大学の出身ですから、いろいろな人と知り合うことができました。それは今、自分にとって大きな宝になっています。ある程度、いろいろな学部のある大学で学ぶというのは、それだけで大きな強みといえます。もうひとつ、先ほど、国際看護という話が出ましたが、群馬大学ではGFL(医理工グローバル・フロンティアリーダー育成コース)とあって、大学全体で国際的に活躍する人材を育成しようという取り組みもあります。こういうことをやってみようということがあれば、何でもできる環境を提供できるので、そういう気持ちを持って入ってきていただきたいですね。

磯貝 何もないと思われている群馬ですが(笑)、あなたが間違っていないともいえるのですが(笑)、来てみると案外楽しいことが見つかると思います。東京や神奈川の出身者で「将来、群馬に残ろうかな」と言っている人も多いので、先入観で判断しないでほしいと思いますね。いい大学です!!

お待ちしています!

島田 受験は長く辛いと思うのですが、大学に入ると、ほかの学部や専攻の人たちに



保健学科看護学専攻4年
島田 真陽瑠 (しまだ まひる)
平成28年 山形県立米沢興譲館高等学校卒業
平成28年 群馬大学医学部保健学科看護学専攻入学

会えて、毎日が本当に楽しいです。それを楽しみに頑張りたいです。そして、春には群馬大学のキャンパスで楽しい大学生生活をスタートさせてほしいですね。

——やりたいことが叶う、たくさんの強みがある群馬大学をぜひ受験していただきたいですね。今日はありがとうございました。





School of Medicine

医学科

- 北関東を代表する国立大学医学部
- 北関東に広がる強力な関連医療機関ネットワーク



Message

● 医学科長 石崎 泰樹

群馬大学医学部医学科は2016年9月にアウトカムを策定しました。アウトカムとは「卒業時に目指すべき学生像」です。それは、「医学・医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面にわたって生涯自己研鑽を続けることができる学生」というものです。

- 具体的には以下の8つの能力を身につけなければなりません。
- 自己省察力**
自分にとって何が課題であるかを見定め、自己管理に努めながら、1つずつ課題に取り組みることができる。
 - 知識の獲得と知識を応用する力**
基礎医学、臨床医学の各分野における知識を身につけ、それらがお互いに関連していることを理解し応用することができる。また、医師が持つべき知は医学にとどまらないことを理解し、自然科学をはじめとする幅広い分野の知識を身につけ、それらを医学・医療に応用する力を培う。
 - コミュニケーション能力**
相互理解と人間関係の構築を意識し、患者やその家族、スタッフと対話を重ねることができる。
 - チーム医療の中で協働する力**
医療チームの他の構成員と積極的に対話を重ねる意義を理解

し、他職種の専門性を尊重しながら対等な立場に立って協働することができる。

- 基本的な総合診療能力**
統合された知識、技能、態度に基づき、患者にとってより良い医療を提供するための実践的能力を有する。
- 地域医療の向上に貢献する能力**
医療の社会的・経済的側面を把握し、地域医療に貢献するための能力を身につけている。
- 医学研究を遂行する能力**
医学・医療の発展に資する研究を遂行する意欲と資質を備える。
- 自己研鑽**
医師としてのキャリアを継続させて、生涯にわたり自己研鑽を行う意欲を持ち続ける。
医学科は2017年に日本医学教育評価機構(JACME)の医学教育分野別評価を受審し、「グローバルスタンダードに合う医学教育を実施している」と認定されました。是非グローバルスタンダードの医学教育を受けて上記の能力を身に付け、臨床医として、基礎研究医として、あるいは公衆衛生医として、人類の福祉に貢献していただきたいと思っております。

School of Medicine Topics

医学科

人体、生命の神秘を追求し、疾病の本態を解明し、それを克服するための方策を探求するとともに、優れた医師、真摯な医学研究者を養成することを目的としています。



- 多職種連携教育
- MD-PhDコース
- 国立大学医学部
- 医療安全教育
- 早期体験実習
- 先端医学研究拠点
- 海外医療機関実習

Topic 1

医療の質・安全学講座を全国に先駆けて設置

高いレベルの医療の質及びPatient Safety(患者安全)を目指し、全国に先駆けて医療の質・安全学講座を設置しました。この講座はWHO等の国際機関との緊密な連携の

もとに教育研究活動を進めます。医学科の学生は、初年次から卒業時まで、さらには卒業後においても、系統的に医療の質・安全学を学ぶことができます。現代の医療は

チーム医療であり、患者安全のためにはチーム内の多職種連携が不可欠です。この意味から保健学科の学生との共通講義・実習も設定されます。

Topic 2

低学年から大学病院や地域医療の現場で学ぶ早期体験実習

解剖学や生理学など医学科の専門科目が本格的に始まるのは2年次で、Student Doctorとして患者さんの診療に参加するのは4年次後半ですが、医学科では、1年次、2年次から医療現場で学ぶ機会を提供しています。1年次では大学病院の病棟で主に看護師さんとともに医療現場を体験する実習を行います。2年次では老人保健施設などで主に介護に従事する実習を行います。さらに4年次には選択科目として、保健学科の学生とともに学ぶチームワーク実習があります。医学科と保健学科の連携が良いのが本学の特徴です。いずれも多職種連携について学ぶ絶好の機会です。

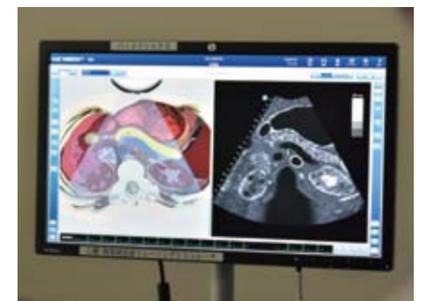


Topic 3

スキルラボセンターの充実したシミュレーション教育

医学部附属病院のスキルラボセンターは、採血や気管挿管、縫合といった基本の手技から、内視鏡検査や超音波検査、そして腹腔鏡手術、ロボット手術などの最先端の医療技術までトレーニングを行うことができる、様々なシミュレーターを有する国内屈指の施設です。低学年の基礎医学の実習から高学年の臨床実習まで、様々な場

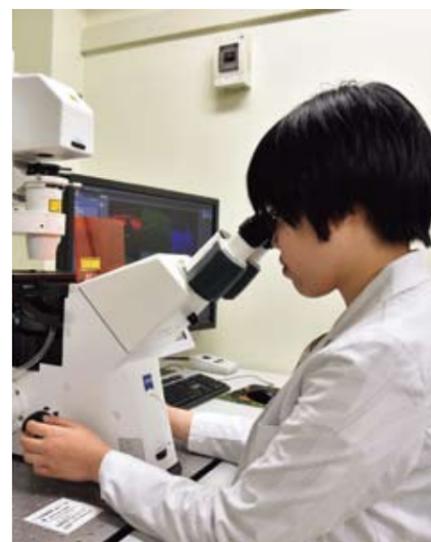
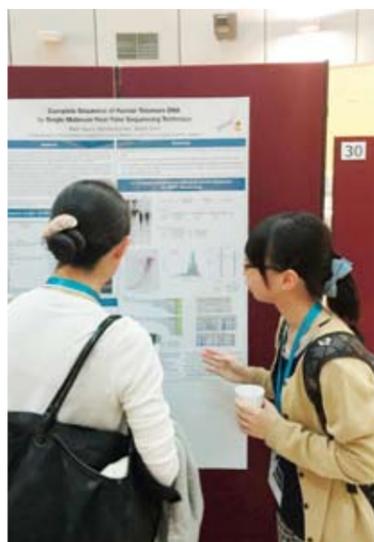
面で医学科の学生が利用しています。低学年から実際の医療機器に触れたり、診療場を再現するシナリオを設定してトレーニングを行うことも可能です。さらに、病院で働く医師や看護師、薬剤師などの医療従事者も利用し、医療技術の維持、向上に役立てています。



Topic 4

学生のうちから研究に参加できるMD-PhDコース

医師には患者さんを診る臨床医の他に、病気の予防や治療を目指して研究を行う研究医もいます。研究医を目指す学生にはもちろん、臨床医を目指す学生でも研究に興味がある学生にMD-PhDコースがお勧めです。本学のMD-PhDコースでは、医学科の授業は通常通り受け、夕方などの時間を利用して研究室での活動に参加する方式をとっています。医学科卒業時にMD-PhDコースでの活動が認められれば、将来大学院に進学したときに通常より1年早く博士の学位を取得することが可能です。コースに参加する多くの学生が学会発表も行っています。夏には他大学の学生と研究討論合宿も行っており、医学研究についての夢を語り合うこともできます。



Topic 5

海外医療の現場を体験できる留学プログラム

医学科では、夏休みなどを利用してドイツ、タイ、インドネシア、コロンビアなどの海外の大学や病院に行き、海外医療の現場を体験するプログラムが充実しています。海外の医療の実情を学び、他国の医学生と友達になるチャンスです。



Topic 6

充実した学習環境

昭和キャンパスの図書館は24時間利用できます。医学の専門書・学術雑誌を中心に所蔵しており、いつでも閲覧できます。閲覧スペースに加え学習スペースも多くの学生に利用されています。グループ学習やディスカッションなどに利用できるスペースも設けてあります。試験を控えた学生は、友人同士で教えあいながら勉強に励んでいます。

図書館以外にも、キャンパス内には国家試験を控えた6年生用に24時間利用可能な、個別ブースを備えた自主学習室が設けてあります。机を並べて教えあい、励ましあいながら全員で国家試験突破を目指します。



Topic 7

チューター制度で入学から卒業まで学生をサポート

医学科では、学生一人一人にチューターとして教授を割り当て、個別に指導と助言を行う「チューター制度」を設けています。チューターは、入学時から卒業時まで一貫して学生をサポートします。学生生活において困ったことがあった場合、学修上の問題があった場合、留学先や研修病院先への推薦書が必要な場合など、あらゆる場面で相談にのり、適切なサポートをします。またチューター制度以外にも学生相談員なども設けており、教職員一体となって学生生活をサポートしています。



Topic 8

豊かな自然環境

群馬県は東京から新幹線に乗れば1時間の首都圏ですが、本学のキャンパスは赤城、榛名、妙義の上毛三山に囲まれ、関東平野を潤す利根川が近くを流れるなど、自然環境に恵まれており、落ち着いて勉学に励めます。また、少し足を延ばせばスキー場や温泉、避暑地として人気の軽井沢と、いずれも思い立ったらすぐに友達と出かけられます。新入生歓迎行事は伊香保温泉、5年次春の合宿は草津温泉で毎年行っています。



医学科の特色

群馬大学で広がる未来！

- 臨床医に加えて理化学研究所などの研究者、WHOの医療行政担当者など多様なキャリアを可能にする医師免許
- 北関東に広がる強力な関連医療機関における臨床研修
- 初期研修と大学院博士課程の両立を可能にする卒前・卒後一貫MD-PhDコース

研究の特色

- 内分泌・代謝学、重粒子線治療を含む統合腫瘍学、神経系の再生医療など世界トップレベルの医学研究拠点
- 重粒子線治療を始めとする先進医療

医学科

医の科学 (Science)、倫理 (Ethics)、技能 (Skill) の探求とそれらの統合による医学の研究と教育の推進並びに医学と医療をリードする人材の育成を目指しています。

1年次 教養教育

医師として基本的な素養と人間性を磨く

教養教育はおもに荒牧キャンパスで行われます。医学部、共同教育学部、社会情報学部、理工学部すべての学生が交流し、様々な考え方に接することができる場です。医学を学ぶ上で必要な科学的素養を身に付けるとともに、医師として必要な、人と社会を理解する文化的素養を身に付けます。荒牧キャンパスは運動施設も充実しており、全学部で構成されるクラブ、サークル活動にも参加できます。

教養教育に加え、月曜日は医学部のある昭和キャンパスで医の倫理学や附属病院での実習など、医学科としての専門教育も行われます。



2年次・3年次・4年次前期 基礎医学・臨床医学

医学の基礎と疾患を理解し、医療人となるうえでの基礎を築く

2年次から専門科目が始まります。医学・医療の知識、技能、態度について講義、TBL（チーム基盤型学習）、実習を通して学びます。まず解剖学や生理学、生化学で人体の構造と機能を学びます。さらに病気を起こす原因や環境について学びながら、疾患の基礎を理解します。これらの基礎的な知識をもとに、個々の具体的な疾患の診断や治療について学びます。診察や治療の技能の修練にはシミュレーション教育を取り入れており、人体模型を用いて基本技能の習得に励みます。また、医療倫理、医療安全、チーム医療をしっかりと

学べるよう、充実した教育体制を整えています。さらに医学研究に興味のある学生はMD-PhDコースを選択して研究能力を磨くことができます。



4年次後期・5年次・6年次 診療参加型臨床実習

医師となるうえで必要な総合的診療能力を身につける

これまでに学んだ知識・技能・態度について、全国共通試験（CBT、OSCE）に合格した学生には、臨床実習を行うためのStudent Doctorの資格が与えられます。臨床実習では、附属病院および地域の医療施設の協力の下、診療参加型実習の拡充を図っています。診療参加型実習の中で学生はチームの一員として診療に参加し、スタッフや患者さんのご協力のもと診療の基礎を学びます。臨床実習でもシミュレーション教育を積極的に取り入れ、臨床の基本となる手技を確実に修得できる環境を整えています。

臨床実習を修了し、筆記試験と実技試験（臨床実習終了時OSCE）



に合格すると卒業資格および医師国家試験の受験資格を得ることができます。

国家試験の合格は医師としてのスタートラインに立てたことを意味するに過ぎません。生涯を通じて学ぶ姿勢が必要です。



教育の特長 ①

本学のアウトカム基盤型の医学教育カリキュラムは、世界標準に基づき認定されています。

卒業時に目指す学生の姿として「SESについて生涯自己研鑽を続けることができる学生」を掲げています。SESはScience、Ethics、Skillの頭文字で、それぞれ「科学的知、倫理、技能」をあらわしています。SESの理念のもとに、卒業時に身につけておくべき医師として重要な力（アウトカム）を8つ設定しました。A.自己省察力、B.知識の獲得と知識を応用する力、C.コミュニケーション能力、D.チーム医療の中で協働する力、E.基本的な総合診察能力、F.地域医療の向上に貢献する能力、G.医学研究を遂行する能力、H.自己研鑽。これらのアウトカムを6年間のカリキュラムで身につける、アウトカム基盤型の医学教育を行っています。

平成29年度には、世界標準に基づく第三者評価である医学教育分野別評価を受審し、本学のカリキュラムとそれを支える教育体制や設備について、評価基準に適合していることが認定されました。

教育の特長 ②

多職種連携教育と医療の質・安全教育の充実を図っています。

本学では、全国の医学部に先駆けて医療の質・安全学講座を設置しました。保健学科や他の医療機関、本学に設置されているWHO協力センターの協力のもと多職種連携教育を充実させ、学生のうちから医療の質と安全に関する教育に力を入れています。

教育の特長 ③

群馬県内の医療施設と連携し、6年間の教育を支えます。

1年次から早期体験実習を導入しています。1年次では附属病院、2年次では県内の医療施設において、介護、福祉、診療におよぶ実習を幅広く履修します。4年次には保健学科学生と合同で実施するチームワーク実習で多職種連携について学びます。Student Doctorとしての臨床実習では、附属病院および地域の基幹病院や診療所を含む医療施設の協力の下、診療参加型実習の拡充を図り、地域の特性に応じた医療について学ぶ機会を提供しています。さらに卒業後には、新専門医制度にも対応した研修が受けられるよう、群馬県および県下の病院が一丸となって専門医取得までサポートする体制を整えており、安心して医師としてのキャリアアップが可能です。



医学科

蜂須 康亮

- 5年生
- 埼玉県立浦和高等学校 出身

貴重な経験、実践的な講義で芽生える医大生の意識

実習で学ぶ意識に変化

5年生になり、本格的な実習がスタート。今は内科で患者さんに問診をしたり、カルテを書いたりしています。学生のうちからこのような本格的な実習ができるのは貴重。事前に十分に練習をしたものの、実際に患者さんを目の前にするとものすごく緊張しました。先輩医師の姿を見て、冷静に診察をし、検査値を見ながらテキパキと対応することがいかに大変なことかがよく分かりました。実習を終えて変わったのは、学ぶ意識。大学受験を含めて今までは試験に合格するため、良い点数を取るための自分よがりの勉強でしたが、患者さんのために学びたいと、勉強する意義がハッキリしました。

堅実で誠実、貴重な経験ができる大学

全国各地の医学部に進学した高校時代の仲間と話す、同じ医学部でも大学によってカラーや、力を入れている科目が違うことに気づかされます。群大が重きを置いているのは、生理学と細菌学だと思います。生理学はすべての基本。細菌学は臨床の現場で必ず役に立つものなので、群大は土台となる部分を大切にしている堅実で誠実な大学だなと感じますね。また、同じ敷地内にあるのが大学病院ですから、たくさんの患者さんが訪れます。中には他では接することのできない症例を目にすることもあります。このような経験をさせてもらえるのも、群大ならではの大きなメリットだと思いますね。

医学部を目指す明確な動機が及ぼす大きな影響

高校時代は、夜8時まで部活。その後、友だちと教室へ戻って10時まで勉強をし、1時間半かけて帰宅というハードな毎日でした。この経験は大きな自信となり、どんなことでも乗り越えられると思える強さが身につきました。高校生のときは、妥協しないであえて厳しい道を選べば、得られるものも大きいと思います。医学部への進学を考えている方には、なぜこの道を目指すのかを明確にしておくと思いいます。医学部の勉強量は多く、覚えることも膨大。6年間、モチベーションを保つのは大変ですが、自分なりの目的をしっかり意識できると、凹みそうになる時も自分を奮い立たせることができますよ。



Time Table

	月	火	水	木	金
1		病棟実習			
2	病棟/外来実習		病棟/外来実習	上部消化管内視鏡	病棟/外来実習
3		肝機能の読み方・腹部エコー			
4					
lunch time	昼休み				
5	内分泌代謝疾患新患カンファ		内分泌カフアレンス	病棟実習	
6	病棟回診・チームカンファ	ERCP	クリニカルリサーチカンファレンス	内分泌画像講義	実習総括
7			糖尿病カンファ		
8					
9					
10					
after school					

医学科

村上 ひかる

- 3年生
- 栃木県立宇都宮女子高等学校 出身

経験を糧に自分にしかできない道を

学ぶ喜び味わえる大学の講義

人を助けられることができ、それが自身の喜びともなる医師という職業はとても魅力的でした。高校の時、生物の授業が面白くて人の体に興味がわき、憧れと学びたい学問が重なる医学部への進学を考えるようになりました。

大学では自分の興味のあることを深く学べるので、学ぶ楽しさや喜びを存分に味わえます。3年生になった今は専門科目一色になりました。好きな科目は、応用生理学。臨床の事例について、出てきた症状の原因について議論をしながら考えていく講義です。議論をするには勉強しないとにならないのですが、好きなことなので楽しいです。普段、臨床医はこういうことをしているのかな、と仕事の一部を垣間見たような気がしました。

実習を通して医師の責任を実感

印象に残っている講義は、群大独自の「医の倫理学」と、2年生のときの「解剖学」。「医の倫理学」では、病気や患者さんに関する正解のない課題について考えたことをディスカッションします。答えがひとつでないため、いろいろな考え方ができる分難しい。それぞれの患者さんによって異なるバックグラウンドの奥の奥まで考えるという訓練だったのかなと思います。「解剖学」では、初めて人の体にメスを入れることで医大生になったという自覚が芽生えました。すべての実習を終えた後、納棺まで自分たちで行うことで人間の尊厳を改めて意識。しっかりやっていたかないと、と医師を志すうえで大切な経験になりました。

勉強と部活、バランスをとってメリハリ

放課後は、真剣に部活動に取り組んでいます。夢は日本選手権出場。限られた時間の中で自分の持っている力を最大限に発揮し、最高レベルの舞台上で戦いたい。勉強と部活は両輪。どちらも精いっぱい頑張るからバランスがとれ、メリハリもつくのだと思います。群大は部活に熱心な学生が多く、励まされます。学校の医学図書館で、論文を読みつつ練習メニューを組んだり、効率のよい筋肉の使い方など医学と絡めながら考え、仲間と話し合うのも楽しいです。将来は群大での学びと経験を生かして、自分にしかできないことを成し遂げたいと思っています。



Time Table

	月	火	水	木	金
1					
2		細菌学	細菌学	細菌学	ウイルス学
3	公衆衛生学				
4					
lunch time	昼休み				
5					
6	公衆衛生学	免疫学	ウイルス学	寄生虫学	細菌学
7					
8					
9					
10					
after school	部活		部活	アルバイト	

スクリーニングの検査の中で最難関と言われる大腸がんの内視鏡診断・治療の世界的権威であり、医師が選んだスーパードクターにも名が挙がる齋藤豊先生。先生から高度な技術を学ぼうと、海外から年間100人以上の医師が訪れる。世界に誇る群大OBの齋藤先生に、群大時代の意外な思い出や、医師に必要な素養を聞いた。

齋藤 豊 先生

Profile

医学部医学科 平成4年3月卒業
大学院医学研究科博士課程修了(博士)
国立研究開発法人 国立がん研究センター
中央病院 内視鏡科長、内視鏡センター長

求められる豊かな人間性。迷ったら茨の道を

空手と内視鏡に共通点!

大学時代は空手に夢中で、主将を務めた年に東日本医科学学生総合体育大会で団体優勝したことは良い思い出です。内視鏡の魅力に取りつかれたのは、大学院時代に赴任した関連病院時代。学生のころは興味がわかかなかったのに、不思議ですね。観るのと実際に自分の手で経験するのは全然違います。

内視鏡の魅力は、診断から治療まで関わること、医師の技術によるところが大きいところ。代表的な内視鏡として、食道・胃・十二指腸などを検査するものと、大腸を検査するものがありますが、技術的な難易度が高い大腸内視鏡の方にチャレンジ精神がかき立てられました。大学時代に打ち込んだ空手で、どうしたら強くなるのか研究を重ねながら稽古に励んでいたのは内視鏡の鍛錬に、難しい治療に挑むときは大きな試合を前にしたときの心境に通ずるものがあります。

日々成長。がん撲滅が夢

今は、国立がん研究センター中央病院で臨床にあたる傍ら、医療機器の開発に携わったり、研究をしたり。1年の3分の1は、ライブアモ

や技術指導や学会などで海外にいます。流派や専門が違う内視鏡医でも一流の医師の技は得るものが多いですし、後輩からも学ぶところがあります。患者さんに手技をする以上、自分や家族が「受けてみたい」と思えるところまで極めたいと思ったのが、がんセンターでのレジデントを志願したきっかけです。今でも日々成長。逆に、成長がストップするようだったら内視鏡は置いた方がよいと思っています。空港で、海外で活躍する空手部の先輩の笠間さん(四谷メテカルキューブ減量外科センター長)や同級生の笠原君(国立成育医療研究センター臓器移植センター長)といった群大の同窓生によく会います。頑張っている姿はよい刺激になります。臨床でのやりがいは、月並みですが患者さんに喜んでいただけること。大きな腫瘍を内視鏡で切除することで、負担をかけず、QOLを大きく向上させられることができると、次のやる気につながります。

夢は、世界から進行がんをなくすこと。そのために内視鏡の啓発や学生の教育が必要です。日本は内視鏡の診断・治療技術で世界のトップレベルですが、検診の受診率が低い。近年日本

人の死因として増えている大腸がんは、早期発見なら100%完治しますし、発見には内視鏡検査が最も確実ですから、もっと広めたいですね。比較的近いところにある厚生労働省との連携も強めたいと思っています。

豊かな人間性を自然あふれる群大で育て

群大生の特徴は、人柄が良いこと。実はこのことは医療現場でもとても大切で、求められる資質でもあるのです。高い知識や技術はもちろん大切ですが、医療はチームで取り組むもの。仲間として働きたいのは、人柄の良い人です。人柄の良さは、チームの雰囲気も良くし、患者さんにも良い影響を与えます。

上毛三山に囲まれた自然豊かな群馬大学で大いに学んでください。そして、若い時は迷ったら茨の道を。志の高い仲間と一緒に仕事ができる日を心待ちにしています。

2019年1月から、国立がん研究センターのレジデントの後輩である浦岡俊夫先生が群馬大学の消化器肝臓内科学分野の主任教授に赴任しました。是非、母校の群馬大学とさらに連携して、世界一の内視鏡を啓発していきたいと考えています。

2019年3月に卒業し、遠く離れた沖縄で研修医としてのスタートを切った藤本・アベリーノ・ヒロシ先生。在学中はGFLに所属し、2度の留学を経験して見聞を広めた。社会に出て改めて感じた群大ならではの取り組みがもたらす意義や将来の夢、群大を目指す人たちへのメッセージを語った。

藤本・アベリーノ・ヒロシ先生

Profile

医学部医学科 平成31年3月卒業
沖縄県立中部病院 初期臨床研修医

チャンスがいっぱいの群大で自分を高めて

GFLで学生時代にしかできない貴重体験

医療の道を目指し始めたのは小学6年生の時。ボランティア活動に積極的な母と妹と共に訪れたインドで、十分な医療が受けられず、家族に捨てられて道端で亡くなる子ども達を見てショックを受けたのがきっかけでした。

群馬大学を選んだのは、地域医療に力を入れていたから。人とのつながりを大切にしている大学という点に魅かれました。大学時代に特に良かったのは、GFL^(注)に所属したこと。丁度、入学した年に理工学部と医学部の共同プログラムがスタートし、1期生となりました。大学3年次と5年次にはイギリス留学を経験。研究スタイル、医療制度、医療に対する価値観の違いのほか、身体診察や医療面接をはじめとするベッドサイド診療を重視した医療現場の違いを肌で感じる事ができました。週に1日はプ

レゼン日。勉強したことを定期的にアウトプットすることで、学んだことが消化できて自らの力になることを実感しました。様々な分野の研究者や他学部の学生とも深く関わったことは、患者さんと話をする際にも活かしています。

群大のリソースを積極活用して

今年の4月から沖縄県立中部病院で研修医として勤務。ここを選んだのは、ハードだから。やるべき仕事が多くて大変な分、自分の身になる、実力がつくと思ったのです。研修医の1年目はすべての診療科を回ります。今は産婦人科で日々、お産や手術に入ってます。指導医の監督の下で、自分がお産をとる事もあります。赤ちゃんと一緒に笑顔で退院される患者さんが私を探してくれて、直接お礼をくださった時は本当に嬉しかったです。求められている仕事ができたと自信になります。

今は、仕事量の多いこの病院でどっぷり臨床に浸かりたい。そうしてこそ、自分でも気がついていなかった好みや興味の分野が見えてきて将来を決めていくことができるのだと思っています。免疫に関心があるので、アメリカやイギリスへ留学をして、そのフィールドを日本に導入するのも面白そうだし、免疫とがんを組み合わせることは今後、求められる分野で興味があります。大学に入学した時、出身校は関係ないと思いました。社会に出た今、出身大学よりも問われるのは、どういう経験をしてきたかだと感じています。そういう意味では、群大はいろいろなリソースがあります。それをどう使うかは自分次第。群大に用意されている豊富なリソースを積極的に活用して、自分自身の可能性を広げていってほしいです。

※ 医理グローバル・フロンティアリーダー育成コース



麻生 知寿 先生

Profile

医学部医学科 平成9年3月卒業
大学院医学系研究科博士課程修了 博士(医学)
群馬大学医学部附属病院 麻酔科・蘇生科 講師

女性医師も活躍。麻酔科は他科にはない魅力いっぱい

緊急を要するケースが多く、場面展開も早い。素早い判断力が求められ、緊張感のある仕事ができることにやりがいを感じて、麻酔科医を志しました。今は、本学附属病院の麻酔蘇生科で、主に手術麻酔、痛みの緩和、集中治療室での全身管理などに携わっています。麻酔科は、基本的に主治医制ではなく、皆で業務を分担し、いろいろな科の医師や多職種と協力して患者さんを診ていきます。当番制で勤務体系が決まっているので、比較的予定が立てやすいですね。結婚・出産しても続けやすい環境ですから、女性も多いですよ。深刻なケースもあり、思い通りの結果が得られないときは、自分の判断は正しかったのか、自問自答することもあります。そんなとき助けられるのは、同じ思いを経験した話せる仲間の存在。それが、次のモチベーションにつ

ながります。

勤務を続けながら、途中で大学院に進学。臨床で湧き上がった疑問を研究で明らかにする経験も積みました。今は講師として後進の育成にも努めています。群大の学生は、みんな素直で感じがいいですね。私の両親は共に医師なのですが、母が群大の学生や卒業生と触れ合ったとき同じことを言っていました。自分の学生時代を振り返ってみると、先輩も仲間も多趣味で社交性が高く、人間的にも魅力的な人が多かったように思います。人の良さは群大生の特徴かもしれません。

群馬大学医学部は、新しいことを取り入れ、日々進化しているのを感じています。海外にも目を向けていて、グローバルな交流も盛ん。豊かな学びを得るのにぴったりの大学です。



澤田 悠輔 先生

Profile

医学部医学科 平成24年3月卒業
大学院医学系研究科博士課程修了 博士(医学)
群馬大学医学部附属病院 救命救急センター 医員

「医学の最先端」と「医療の最前線」での経験を患者さんの救命のために

私はもともと脳神経科学と救急医学に興味を持っており、学生時代から研究室や救命救急センターに通っていました。

そのため、本学卒業と同時に、卒前・卒後一貫MD-PhDコースを履修し、附属病院で臨床研修を行いながら、大学院に進学して基礎研究を行っていました。

大学院では医学の最先端で、脳神経科学の基礎研究に携わり、博士号を取得しましたが、悩んだ末に救急医となる道を選びました。現在、勤務している救命救急センターは、まさに医療の最前線です。

救命救急センターに搬送される患者さんは、一刻を争う状態であることが多く、瞬時の判断と迅速な処置が求められます。また、当センターはドクターカーを運行しているため、救急現場に直接出動することも

あります。患者さんの治療にあたっては、多職種との連携も必要であり、救命救急は全ての医療スタッフの力を結集させる医療です。

救急医になってからは、大学院での経験を活かして救急医学に関する研究を行っています。救急医として眼前の患者さんの重要性を感じています。また、次世代の医療人を育成するためには、医学生への教育も重要であり、附属病院では、臨床実習を行う医学生を対象に、外傷患者対応トレーニングコースを定期的に開催しています。

このように、群馬大学医学部の魅力は、昭和キャンパス内で臨床・研究・教育が実践できる点にあります。

志ある後輩を待っています。



School of Health Sciences

保健学科

- 国際的保健学研究の拠点形成
- 高度専門医療人の養成
- チーム医療教育の推進
- 地域包括ケアシステムの支援



Message ● 保健学科長 横山 知行

少子・超高齢社会となった我が国においては、社会構造や生活習慣の変化に伴い、疾病・障害構造が大きく変化するとともに、介護問題をはじめ新たな保健医療的問題が多数生じています。国民の要望も多様化し、健康志向が高まり、生活の質の向上や健康寿命の延長が求められています。

しかし、我が国では医師、看護師をはじめとした医療人不足と保健・医療の地域格差が顕著となっています。一方、財政上人員を増やすことには制約があるため、保健医療人の資質を高める必要があります。また発展途上国では現場の保健医療のみならず、教育者が不足しています。実は、我が国においても保健学教員が不足しています。よって、保健学マインドをしっかり持った保健学教育者の養成も急務です。このような社会的要請に応えるには、学部における高度な知識と技術を持った医療専門職の養成に加え、大学院における教育・研究を充実させ保健学各領域における研究者と教育者の養成が必要です。

そこで、保健学科は、保健学教育と研究の充実に向けて様々

な教育プロジェクトを立ち上げてきました。特に、保健学科設置以来継続していたチーム医療教育をさらに発展させるため、チーム医療教育の国内ネットワークJapan Interprofessional Working and Education Networkを構築しました。この活動が認められ、平成25年にはWHO Collaborating Centerに指定されました。保健人材育成分野では群馬大学が国内初です。

また、平成26年に行われた「ミッションの再定義」で、文部科学省により『全人的医療とチーム医療をキーワードに、確固とした倫理観と豊かな人間性を持ち、高度な技術と知識を備え、チーム医療のリーダーとなる人材を育成する。また、医療系の国立大学として充実した研究環境を活かし、保健学研究を推進する研究者や教育者の育成を積極的に推進する。』ことが認められました。この評価は、保健学研究を推進する優れた大学として認められたものです。

高度保健医療専門職や保健学研究者・教育者を目指す学生さん、ぜひ群馬大学と一緒に勉強しましょう。

Health Sciences Structure of the Major Fields

保健学科

保健学科は総合的で先進的な保健学教育・研究を展開し、保健医療の専門職として、確固たる倫理観と豊かな人間性を持ち、社会的使命を果たすことのできる人材を育成します。

看護学専攻



根拠にもとづく人間性あふれる地域完結型看護リーダーとしての能力を育む

看護学専攻では**看護師・保健師・助産師**の資格取得を目指します。

■ 看護学で学ぶこと

- 基礎看護学：看護の基礎となる知識や技術など
- 臨床看護学：成人期の人や高齢者の看護、こころの看護など
- 母子看護学：妊娠や出産にかかわる看護や子どもの看護など
- 地域看護学：地域での健康づくりや暮らしにかかわる看護、国際協力や災害看護など

検査技術科学専攻



人々の健康と高度医療を支える臨床検査のスペシャリストとしての能力を育む

検査技術科学専攻では、**臨床検査技師**の資格取得を目指します。

■ 検査技術科学で学ぶこと

- 基礎検査学：生物学、化学、物理学などの教養科目の知識をもとにした、臨床検査学の基礎の分野
- 応用検査学：基礎検査学の知識や技術を、臨床検査に応用する分野

理学療法学専攻



リハビリテーションにおける新しい機能回復の理論、技術の研究・開発能力を育む

理学療法学専攻では、多様な領域のリーダーとして国際的に活躍できる**理学療法士**を育てます。

■ 理学療法学で学ぶこと

- 基礎理学療法学：解剖学等を基に、理学療法で必須の知識である筋や関節、内臓等の機能と動作の関係や、理学療法の基礎となる患者さんの状態の捉え方など
- 総合理学療法学：神経系、運動器系、呼吸・循環器系の疾患を有する患者に対する理学療法や地域・在宅における理学療法など

作業療法学専攻



障がいのある人々が幸福で豊かな生活を送るために、根拠に基づいた支援ができる**作業療法士**を養成します

作業療法学専攻では**作業療法士**を目指す皆様の目標を応援します。

■ 作業療法学で学ぶこと

- 基礎作業療法学：障がいをもつ人々を支援するために必要となる、筋や脳の働き、動作や行為の仕組み、精神の働きなど
- 心身障害作業療法学：身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害に対する作業療法の実践や地域での作業療法など

教育の特色

- 保健学の研究者・教育者の養成
- 高度専門医療人の養成
- WHO協力センターにおける国際的チーム医療教育
- アメリカやアジアの大学との交換留学・国際交流

看護学専攻

Department of Nursing

教育の特長

看護の専門性を発揮できる地域完結型看護・国際看護協力が実践できる能力を育成します。

生命、個人を尊重し、根拠ある看護を提供するために、看護の専門的知識や技術を学びます。病気を予防する健康教育、健康回復への支援、終末期ケア、人間のライフサイクル各期における看護、地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護を習得し、高度・専門化した保健医療福祉に対応できるような教育を行います。

看護学専攻の教育目標は、地域完結型医療のなかの看護職として、健康問題を有する人々に接する真摯な態度と生涯にわたる自己学習の習慣を身に付けることにあります。将来、保健医療福祉におけるチームの中で看護のリーダーシップを発揮でき、さらに、世界の看護に視野を広げ、国際看護協力が実践できる人材を育成します。看護師または保健師、助産師になるために、看護学の基本的知識、技術を修得することを目指します。

看護学専攻のカリキュラムは、①人間の身体的・精神的側面、人間を取り巻く社会環境についての学習、②看護学の基礎理論や方法論の学習と看護実践能力、③人間のライフサイクル各期における健康の保持増進を図るための知識と援助技術、④看護活動の場の拡大に対応した看護実践能力、⑤健康障害者の看護を実践する知識と援助技術・態度、⑥国や地域レベルの健康課題の解決とシステムづくりに関わる看護実践能力、以上の修得を目指します。



検査技術科学専攻

Department of Laboratory Sciences

教育の特長

高度な知識と技術を備え、国際的な活躍ができる臨床検査技師を育成します。

検体検査・生理機能検査・遺伝子検査といった、日々発展する検査技術分野の専門知識や技術を身に付け、高度・専門化した医療を支える人材となれる教育を行います。

検査技術科学専攻では、「全人的医療」、「チーム医療」、「バイオサイエンス」をキーワードとしています。遺伝子検査等の最新の検査技術の教育、臨地実習、チームワーク実習を通して、高度な技術・知識のみならず確固たる倫理観、豊かな人間性、他職種との連携能力を備えた臨床検査技師の育成を目指しています。

本学は、細胞検査士養成コースを開設しており、修了者は同資格認定試験(日本臨床細胞学会)の受験資格を得られます。また、1年間の卒業研究のカリキュラムを通して、臨床検査学領域の研究手法及び思考法を習得できます。更に、ワシントン大学との交換留学を実施し、国際的な視野を持つ臨床検査技師の育成を目指しています。



- 群馬一丸で育てる地域完結型医療・看護リーダーの育成
- 大学院におけるがん看護、老人看護、慢性疾患看護、母性看護の4分野の専門看護師養成
- 大学院における臨床研究コーディネーターの養成
- チューター制度と学生相談員制度

研究の特色

- 保健学研究・教育センターによる国際的保健学研究の支援
- WHOから指定された「多職種連携教育の研究・研修を行う」専門機関(WHO協力センター)

理学療法学専攻

Department of Physical Therapy

教育の特長

新しい機能回復の理論、技術の研究・開発能力を育てていきます。

専門職としての態度や実践的な技能の修得が円滑に図れるよう、科目の枠を超えた教育を心がけ、机上での学習だけではなく、臨床での体験や実習などを通じた能動的な学習への支援を重視しています。

少子・超高齢社会という現代の日本において、疾病構造の変化や医療・福祉サービスの多様化、グローバル化に伴い、理学療法士に求められる社会的ニーズも拡大しています。その社会的ニーズに応えるためには、人間や社会を幅広く捉える知識と実践的で効果的な技術が求められています。理学療法学専攻では、医学や人間学等の知識をもとに、理学療法に必要な疾病と障害の成り立ちやその実態についての基礎的知識を学び、機能や障害を評価する方法、障害に対する運動療法、物理療法、補装具療法などの適応理論と臨床応用を学びます。また、運動器系理学療法学、神経系理学療法学、発達障害理学療法学、内部障害系理学療法学などの専門的な理学療法理論と技術を習得し、急性期から地域や在宅での理学療法、健康管理やスポーツ分野での理学療法など、幅広い分野における理学療法について学びます。さらに、海外の理学療法に触れられる機会として、アメリカやモンゴル国での研修プログラムや留学生との交流にも力を入れています。そして、世界的視野でこれからの理学療法学の発展に貢献できる新しい理論や治療技術の研究・開発能力を修得し、臨床・教育・研究の分野において活躍できる人材の育成を目指しています。



作業療法学専攻

Department of Occupational Therapy

教育の特長

心と体に障がいをもつ人々の生活支援の知識と技術を学びます。

少人数制である本学の特色を活かし、きめ細やかな学びの場を提供します。障がいを持つ人々の生活支援に必要な知識・判断力や態度・技術を学び、臨床実習を通じて実践的な学習を行います。

作業療法とは、人々の健康と幸福を促進するために行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助のことをいいます。ここでいう作業とは、その人にとって価値のある行為のことで、作業療法は医療・保健から福祉・教育などまで幅広い領域で必要とされています。

1、2年生の間は、人体の構造と機能、心身の発達、疾病の成り立ち、などの基礎分野を学習します。2年生後期以降、作業療法の構築、評価、治療・援助、地域での役割などの専門分野を学びます。さらに臨床実習や卒業研究を通じて専門職業人や研究者として必要な知識と技術を習得します。

卒業生は、保健・医療・福祉などで活躍するほか、大学院進学後に大学教員や研究者としても活躍しています。



保健学科

保健学科は、海外や地域にも目を向け積極的により高度で実践的な教育を行っています。



- 保健学
- 全人的医療
- 高度専門医療人
- 専門看護師
- 臨床研究コーディネーター
- 細胞検査士
- チーム医療
- WHO協力センター
- 地域包括ケアシステム
- 在宅ケアマインド

Topic 1

WHO協力センターにおけるチーム医療教育の国際的リーダー育成

WHO協力センターの指定を受けた群馬大学で、さらに教育の充実を目指す

保健学科は、看護学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学の4専攻で構成されています。全人的医療を担う高度医療人の養成を教育理念の基本におき、各専攻の専門教育とともに、チーム医療教育/多職種連携教育に力を注いできました。「チームワーク実習」はこの中核となる科目で、学内外約20施設の協力のもと、保健学科と医学科の学生が参加する実習で、2018年からは医療安全教育も行われます。

多職種連携教育ではWHO（世界保健機関）をはじめ国内外の機関や大学とも連携して学生教育の向上を目指してきました

が、これまでの実績が認められ、2013年には群馬大学がWHO協力センターに指定されました。実行組織となる「多職種連携教育研究研修センター」が開設され、多職種連携教育の研究と研修を行っています。WHOとの連携を通して学生教育のさらなる向上を目指しています。

2010年には、多職種連携教育を学ぶ学生組織としてSIPECが設立され、学内での勉強会や講演会への参加などの活動の他、WHO本部や西太平洋事務局への訪問、学会や講演会での発表などを行なっています。2018年9月にオークランドで開催される

国際学会ATBH IXでSIPECの学生がこれまでの学習成果を発表します。これらの活動を通して、全人的医療を担い国際的に活躍できる医療人を育成しています。



Topic 4

地域保健学リーダー

地域活動と教育との一体化を目指した大学院教育プログラム

保健学研究科では当初より社会人学生に配慮した教育を行い、大学院生の6～8割が主に保健医療機関で働く社会人学生という特徴があります。平成19年には新しい大学院教育プログラム「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」を構築しました。具体的には、地域の保健医療従事者を社会人学生として受け入れ、所属機関での研究

課題を所属機関と大学との共同で「地域保健学研究プロジェクト」として遂行します。

学生はこの課程を通して、研究能力やリーダーとしての能力を修得し、大学院修了後は「地域保健学リーダー」として、地域保健医療活動を大学と協働して推進、促進する役割を果たすことが期待されます。



Topic 2

群馬一丸で育てる地域完結型医療・看護リーダー

「地域包括ケアシステム」のリーダーになれる医療人育成

看護学専攻は、【群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー事業】に取り組んでいます。これは、地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護が提供できる「在宅ケアマインド」をもった看護人材を養成する事業です。

わが国は、世界に類をみないスピードで高齢化が進んでいます。少子・超高齢多死社会に対応するため、病院中心から在宅中心の医療やケアへの移行が推進されています。住民が住み慣れた地域や自宅で、最期まで自分らしい生活が送れるように支援ができる人材が求められています。

大学では県内の保健医療福祉の関係機関や多職種が一丸となって教育に取り組んでいます。主な教育内容は、①1年次から「在宅ケアマインド」を養う学部教育改革、②大学院での「地域完結型看護リーダー養成コース」、③実習指導者のための履修証明プログラム「地域完結型看護実践指導者養成プログラム」です。これら卒業前から卒業後までの一貫した教育により、地域のあらゆる場で切れ目のないケアを提供できる人材養成を行っています。



Topic 5

大学院におけるより高度な専門職養成

専門看護師 (Certified Nurse Specialist) 臨床研究コーディネーター (Clinical Research Coordinator)

わが国では高度化・専門化が進む医療現場において、質の高い看護ケアを効率よく提供する専門看護師 (CNS) の資格認定制度があります。CNSになるには、特定の専門看護分野の実務経験と大学院博士前期課程での学修が必要です。本学大学院では、がん看護・慢性疾患看護・老年看護・母性看護分野が認可され、CNSコースとして大学院教育を行っています。CNSコース修了生は日本看護協会による資格認定審査に合格してCNSの資格を得ることができます。

臨床研究の中核拠点となっている世界の研究医療機関では、臨床研究コーディネーター (CRC) やデータマネージャー (DM) と呼ばれる専門職が活躍して、臨床研究や疫学研究が進められています。本学大学院では、平成13年の大学院設置当初から、臨床研究専門職の指導者養成のための講義や演習を行ってきました。また、実践的な演習

を含む「CRC管理者養成コース」を開講しています。コース履修者には、「臨床研究プロフェッショナル(臨プロ)」の称号が与えられます。



Topic 3

国際交流

国際感覚の向上と国際社会への貢献

保健学科は国際社会で活躍できる人材育成を目指し、教員及び学生の国際交流を行っています。ワシントン大学、ピュージェット・サウンド大学など米国の大学や、ニカラグア国立自治大学マナグア校、モンゴル国立医科学大学、タイ王国ランシット

ト大学及び大韓民国仁済大学とも交流し、相互訪問をしています。学生は、留学生と一緒に学ぶ中で、国際社会で必要とされるコミュニケーション能力を養っています。留学生にとっては母国の発展に役立つ知識や技術を得る機会となります。また、モンゴル

での理学療法士養成の教育支援は大学が行う国際協力で高く評価されています。このように、保健学科全体で国際交流・国際協力に取り組んでいます。



Topic 6

就労女性疾病予防研究プログラム

女性の健康に寄与する世界最大規模の国際クロスコホート研究

現在、グローバルレベルでの最先端研究推進事業「就労女性疾病予防研究プログラム」が進行しています。保健学科の疫学専門家らが、全国の看護職女性を対象に「日本ナースヘルス研究(JNHS研究)」という大規模就労女性コホート研究を運営し、遺伝的因子や生活保健習慣がどのように疾病発生に影響するかを調べています。また、JNHS研究は、世界最大規模の国際クロスコホート研究「InterLACE研究」に参加して、米国ハーバード大学や豪州クイーンズランド大

学などの女性コホート研究とグローバルな国際比較研究を行っています。ヘルスケアに関する疫学的エビデンスを世界に発信

し、女性の個別化された予防法の提示という新たな試みを行っています。



InterLACE研究に参加している国々(左図)と参加研究拠点の校章・シンボル(上図)
(InterLACE研究ホームページから
<http://www.interlace.org.au/web/Home.aspx>)

保健学科教員

日進月歩の医療界において、研究活動と臨床は表裏一体。先端研究と共に実践ができる教員がサポート。



看護学専攻

近藤 由香 基礎看護学 准教授



基礎看護学を担当しております。リラクゼーション法、がん患者への緩和ケア技術、看護技術に関する研究に取り組み、よりよい看護を実践できることに貢献していきたいと考えております。

恩幣 宏美 基礎看護学 准教授



研究は中小規模病院での看護師の退院支援の実践能力向上に対する教育プログラムの開発と検証について行っています。また、出産後の勤労女性に対する職業継続と健康管理の研究にも取り組んでいます。

柳 奈津子 基礎看護学 講師



看護における基礎的な技術、特にマッサージ、アロマセラピー、リラクゼーション法などリラクセスを促すための技術の効果を検証しています。また、附属病院の外来においては、それらの技術の提供や指導をしています。

辻村 弘美 基礎看護学 講師



基礎看護技術やコミュニケーションに関する授業等を担当しています。また、異文化看護や認知症に関する研究をしています。皆さんとのコミュニケーションを大切にしたい学生生活になるようにサポートします。

中村 美香 基礎看護学 助教



1、2年生の基礎看護学の演習と実習を主に担当しています。研究テーマとしては看護職のキャリア形成やリスクマネジメントなど看護管理に関するテーマに関心をもち取り組んでいます。

岡 美智代 臨床看護学 教授



生活習慣病患者の食事などの自己管理を支援する研究に取り組んでいます。また慢性疾患看護専門看護師の教育も行っています。http://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/

二渡 玉江 臨床看護学 教授



がん患者の意思決定や心理適応支援、がんに伴う症状緩和に関する研究とともに、がん看護専門看護師教育、がん看護研究会、がん相談外来などを通して、教育と臨床の連携、研究成果の実践活用を進めています。

近藤 浩子 臨床看護学 教授



心身を健康にするヒーリングの研究、これをストレスマネジメントや疾患を持つ人の癒し技法として活用するための普及活動をしています。精神看護の教育では、グループ療法や認知療法的アプローチに力を入れています。

大山 良雄 臨床看護学 教授



臨床医学に関する講義を担当しています。糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病に対して、栄養学やリハビリテーション学との連携を重視した予防や療養指導の研究に取り組んでいます。

内田 陽子 臨床看護学 教授



老年看護学を担当。元気老人から弱々しく生活している人、認知症や様々な病気をもつ高齢者看護を幅広く実践、研究に取り組んでいます。探究心と共に明るく、ユーモア、笑い、涙ありの毎日です。

伊東 美緒 臨床看護学 准教授



老年看護学を担当。主に認知症高齢者の看護について実践的な研究、教育に取り組んでいます。三人息子の子育てと高齢者看護の実践から、「ケア」について広い視野で取り組んでいきたいと考えています。

高橋 さつき 臨床看護学 講師



腎臓病の患者教育普及に関する研究を行っております。患者さんがパソコンで腎臓病のことを学ぶeラーニング『腎臓ケアeラーニング講座』を開発し、Webで無料公開 (http://plaza.umin.ac.jp/~jin) しております。是非とも、ご覧ください！

坂入 和也 臨床看護学 助教



精神看護学実習を担当しています。高齢者や発達障害児を対象とした動物介在活動（アニマルセラピー）の実践、評価などを行っています。また、災害時の精神障害者の支援について、調査・研究を行っています。

塚越 徳子 臨床看護学 助教



成人看護学の講義・演習、成人看護学（急性期・回復期）実習を担当しています。研究テーマは、がんと認知症を合併する患者さんや家族に対する看護支援です。

井手段 幸樹 臨床看護学 助教



成人看護分野の演習と実習を担当しています。研究テーマは慢性疾患患者における運動療法に関するものです。患者さんが自分自身の生活を病と共に豊かにできるように、取り組んでいきたいと思っています。

小山 晶子 臨床看護学 助教



老年看護学を担当しています。高齢者の日常生活能力の評価や転倒予防ケア、地域での高齢者支援体制づくりに関する研究を行っています。県内市町村の介護予防事業（地域ケア会議）に看護の視点で携わっています。

京田 亜由美 臨床看護学 助教



成人看護学を担当しています。研究テーマは終末期がん患者さんの死生観や患者さん、家族、看護師間の生や死に関するコミュニケーションについてです。また、がん看護専門看護師として実践活動もしています。

梨木 恵実子 臨床・地域看護学 助教



老年看護と在宅看護を担当しています。「在宅で暮らす高齢者への支援」をテーマに、教育や研究に取り組んでいきたいと思っています。また、老人看護専門看護師として訪問看護でも活動中です。

常盤 洋子 母子看護学 教授



周産期のメンタルヘルス・出産体験の意味づけ、助産師のキャリア発達に関する研究を行っています。また、母性看護外来（看護専門外来）で妊娠・出産・育児にかかわる悩みや不安に関する看護相談を行っています。

篠崎 博光 母子看護学 教授



妊娠中・産後の禁煙支援に関する研究、妊婦のシートベルト着用に関する研究、月経不調に関する研究など周産期・ウィメンズヘルス関連の研究や多職種連携教育・協働に関する研究に取り組んでいます。

金泉 志保美 母子看護学 教授



医療依存度の高い子どもの退院に向けての支援や、地域で生活している子どもと家族のQOL向上のための支援、そこにかかわる保健医療・福祉・教育の連携に関する研究に取り組んでいます。

牧野 孝俊 母子看護学 准教授



教育では、子どもの成長発達やQOL向上を念頭に置き小児看護学に関連した科目を担当しています。研究では、父親の育児や児童虐待に対する世代間伝達、IPEにおける教育効果に関連した分析を行っています。

國清 恭子 母子看護学 講師



助産師が母親の出産体験の振り返りを支援する際に活用できるツールの開発に取り組んでいます。また、母性看護外来において妊娠・出産・子育てにかかわる不安や心配に対する看護カウンセリングを行っています。

深澤 友子 母子看護学 助教



母性看護学、助産学を担当しています。妊娠、出産、育児期の女性のメンタルヘルスに関心があり、早産をしたお母さんとご家族を支えるためのケアについて研究しています。母性看護専門看護師として活動もしています。

齋藤 明香 母子看護学 助教



母性看護学・助産学の演習や実習を担当しています。高年妊産婦に関する研究や産科セミナーシステムに関する研究に取り組んでいきたいと思っています。

牛久保 美津子 地域看護学 教授



どんな病気や障害があっても、どんな年齢であっても、安心・安全にかつ住み慣れた地域で自分らしく暮らせるように、多職種と協働しながら地域包括ケアシステムの中での在宅療養支援のあり方の創出をめざします。

佐藤 由美 地域看護学 教授



「地域での健康づくり活動の推進」、「生活習慣病予防の保健指導」、「在日外国人学校に通う子供の健康支援」など地域の健康課題に対し、保健師や地域住民等関係者と共同で実践的な研究に取り組んでいます。

森 淑江 地域看護学 教授



国際看護協力、諸外国の看護・看護教育制度、異文化看護、在日外国人・在外邦人への看護、災害看護などに関する研究を行うとともに、国内の国際協力に携わる人材や海外の看護職を対象とした研修も実施しています。

大庭 志野 地域看護学 教授



食事や喫煙等が、生活習慣病のリスクにどのような影響を及ぼしているか、疫学研究をしています。疾病予防の知識と行動変容についても分析を進めています。疫学概念や方法論を保健専門職へ普及する事を目指します。

石川 麻衣 地域看護学 准教授



「行政保健師の地区マネジメント」など公衆衛生看護の機能・特質に関する研究。行政保健師の活動および教育方法に関する研究、市町村及び保健所の保健福祉活動や健康危機管理に関する研究に取り組んでいます。

風間 順子 地域看護学 助教



地域看護学の演習や実習を担当しています。地域生活の場において展開される地域看護活動（公衆衛生看護活動）について探求し、幅広い看護活動や看護の専門性について、学生の皆様と共に考えていきたいと思っています。

村田 祥子 保健学研究教育センター 准教授



心理学と教育学の立場から、行動指標・生理指標を用いて人間の適応過程に接近を試みています。適応過程には学習機構が深く関わりと捉え、主要な課題として記憶、学習の領域を位置づけています。

長井 万恵 保健学研究教育センター 助教



医療統計学演習を担当しています。女性のライフコースにおけるリスク因子の探索やそれらに対する予防についての疫学研究を行っています。また、治療の有効性や安全性を評価する臨床試験に関する研究も行っています。

検査技術科学専攻

興石 一郎 基礎検査学 教授



生体内で恒常的に産生される活性酸素種、活性窒素種および活性硫黄分子種は生体のホメオスタシス維持に必須の分子種です。これら分子種の生体内でのカイネティクス・ダイナミクスを解明しようとしています。

柴田 孝之 基礎検査学 准教授



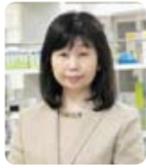
当研究室では「光」を利用して、疾病に関与する生体分子を高感度かつ特異的に検出する技術の開発を行っています。また、実際に臨床検体を使用して研究を展開し、新しい臨床検査法の創製を目指しています。

笠松 哲光 基礎検査学 助教



血液疾患、特に血液腫瘍を対象として、分子生物学的・免疫学的技術を用いた研究を行っています。疾患と宿主との関係を解明し、新しい検査・診断法の開発を目指しています。

嶋田 淳子 応用検査学 教授



当研究室では国際感染症であるマリアアトリパノソマを対象として分子生物学的研究を行っています。病原体感染による宿主応答などについて分子レベル、細胞レベルで解析し、薬剤開発の研究も進めています。

松井 弘樹 応用検査学 准教授



生理機能検査を専門に授業や実習を担当しております。研究では、脂質組成が循環器・呼吸器疾患に及ぼす影響について、分子レベルの解析と画像解析を合わせて解析することで、疾患の予防に向けた検討を行っています。

小林 さやか 応用検査学 助教



専門は病理組織・細胞診断学で、学部教育では標本作成技術や細胞診断学の実習を担当しています。また患者さんから採取された組織材料を用いて、核の形状変化と画像解析を研究テーマとしています。

大西 浩史 医療基礎学 教授



生体制御に関わる細胞シグナルの分子メカニズムと機能についての基礎研究を行っています。生命システムの姿を明らかにして、これらを基盤とした次世代の保健・医療の創出を目指します。

中村 和裕 基礎検査学 教授



たんぱくが異常に折りたたまれ、その結果として神経細胞が障害を受ける脳の病気の研究をしています。生化学的な手法に加えて、工学的なアプローチによる治療戦略を考えています。

時田 佳治 基礎検査学 助教



「食と健康と臨床検査」をキーワードに、海産物に含まれる硫酸化多糖の健康効果のメカニズムの解明や食後の血中脂質変化と生活習慣病とのかわりを明らかにし、臨床検査に応用するための研究に取り組んでいます。

茂原 美穂 基礎検査学 助教



神経疾患についての研究を培養細胞を用いて行っています。治療に繋がる研究を目指しています。

齋藤 貴之 応用検査学 教授



専門は血液学と免疫学です。血液疾患の新しい治療法の開発のために、疾患に関連する DNA 損傷や免疫反応について研究しています。http://ketsuken-gunma.kenkyuukai.jp/special/?id=16646

松本 竹久 応用検査学 講師



教育では病原細菌の同定・薬剤感受性検査などの臨床微生物検査を担当しています。研究では病原細菌を対象として、菌の栄養要求性に関する研究や、新しい細菌培養・検査法の開発を目指した研究に取り組んでいます。

後藤 七海 応用検査学 助教



ゲノム情報を守る DNA 修復経路と、免疫担当細胞を制御するサイトカインを中心に研究しています。血液系のがんや自己免疫疾患との関連を解明し、新しい検査や治療戦略につなげることを目指しています。

豊村 暁 医療基礎学 准教授



脳波 (EEG) や機能的磁気共鳴画像法 (fMRI) を用いて、ヒトの運動制御に関する神経科学研究を行っています。特に「吃音(きつおん)」を調べています。

安部 由美子 基礎検査学 准教授



胎盤の炎症性疾患である絨毛膜羊膜炎は早産の主因で、児の慢性肺疾患や脳室周囲白質軟化症の発症リスクを増加させる疾患です。絨毛膜羊膜炎とホルモンや増殖因子との関係について、基礎医学的研究を行っています。

鬼塚 陽子 基礎検査学 助教



感染症、特に寄生虫に着目し研究しています。どのようなメカニズムで感染し、症状を引き起こすのか、ヒトと寄生虫の相互作用を細胞生物学的手法を用いて解析し、迅速診断や感染予防に役立ちたいと考えています。

横山 知行 応用検査学 教授



心電図、肺機能、超音波、MRI、脳波などの生理機能検査を担当しています。現場のニーズに十分に答えられる臨床検査技師を目指すとともに、呼吸循環器に関する幅広い研究を行っています。

齊尾 征直 応用検査学 教授



細胞診において重要な観察項目の一つである核について、核の形状変化の機序の解明を各種疾患を用いて検討しています。また、細胞が細胞を食べこむ細胞内細胞現象の解明にも精力的に取り組んでいます。

西島 良美 応用検査学 講師



病理・細胞診分野の実習や細胞検査士養成コースを担当しています。形態学的手法や分子生物学的手法を用いて、婦人科病変の早期発見、早期診断に繋がることを目指した研究を主にしています。

林 邦彦 医療基礎学 教授



女性コホート研究において、各種の生活保健習慣が健康にどのような影響を与えているか、経時的調査から検討しています。また、子宮内腺症患者コホート研究など、疫学という研究法で予防や治療の評価を行っています。

理学療法学専攻

白田 滋 基礎理学療法学 教授



基本動作能力の三次元動作解析装置を用いた基礎的な研究や臨床で使用できる評価尺度の開発を研究しています。高齢者の健康関連体力や転倒、介護負担感、社会参加などに関する調査研究にも取り組んでいます。

佐藤 江奈 基礎理学療法学 助教



授業は解剖学実習、生理学実習、生活環境支援学実習、チームワーク実習などを担当しています。また、多職種連携教育にも取り組んでいます。研究は変形性股関節症に対する装具療法などに取り組んでいます。

山上 徹也 総合理学療法学 准教授



認知症高齢者に対するリハの評価方法や介入効果、地域リハや介護予防を研究しています。障がいの有無に関わらず、すべての人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる地域作りにリハの視点で取り組んでいます。

上宮 英之 医学基礎学 講師



原始的な昆虫の発生を調べて、昆虫を含む節足動物の系統を研究しています。担当授業は、「生物学 I」、「情報」、「昆虫の科学」、「動物の分類と進化」、「虫の名前を調べてみよう」です。

李 範爽 基礎作業療法学 教授



学部教育では作業療法の中でも主に身体障害領域の講義・実習を担当しています。また、脳機能画像法や運動生理学的手法を用いて、日常生活を営む上で必要な、感覚、認知、運動機能について研究しています。

下田 佳央莉 基礎作業療法学 助教



専門は身体障害の作業療法です。注意機能などを高める、効果的な作業療法の実践を目的に、脳機能計測装置を用いて研究を行っています。がん患者さんにおける作業療法の役割についても、探求し始めた所です。

土屋 謙仕 心身障害作業療法学 助教



専門領域は高齢期障害領域の作業療法であり、全ての人が自分らしく生活ができるように取り組んでいます。研究では、脳機能計測装置を用いた認知機能や情動に関する研究に携わっています。

久田 剛志 基礎理学療法学 教授



研究は、喘息や COPD、間質性肺炎、がん、感染症などの呼吸器疾患の病態解明やその制御をおもなテーマとしています。呼吸器疾患に対するリハビリテーションの有効性に関する研究を進めています。

坂本 雅昭 総合理学療法学 教授



スポーツ外傷・障害の理学療法、中・高齢者及び障害者の健康評価と健康づくり、アスレティックリハビリテーションに関する研究を行っています。また、各種大会で理学療法サポートを行っています。

久留利 菜菜 総合理学療法学 助教



呼吸・循環・代謝等内臓障害のリハビリテーションに関連した実習や授業を主に担当しています。また、2006年からアメリカ研修の担当、2015年4月からは国家試験の担当として学生の支援を行っています。

作業療法学専攻

三井 真一 基礎作業療法学 教授



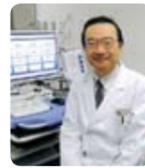
一夫一婦制を示すネズミを使って、家族の絆に及ぼすストレスの影響を研究しています。また、遺伝子操作マウスを用いて発達障害の発症機構についても研究しています。詳しくは、研究室のホームページをご覧ください。

田中 浩二 基礎作業療法学 准教授



高齢者や高次脳機能障害に対する作業療法、地域作業療法、日常生活活動、研究法の講義を担当しています。認知症などの老年期障害における作業療法に関する研究を行なっています。

山崎 恒夫 心身障害作業療法学 教授



専門は臨床神経学で、主として細胞生物学的アプローチを用いた認知症の研究を行っています。今後は認知症によって生じる高次脳機能障害の分野にも研究のフィールドを広げようと考えています。

川島 智幸 医療基礎学 准教授



専門は応用言語学です。World Englishes (世界の様々な英語) の授業への応用、教材開発、教育的効果について研究しています。また、英語で発信する能力を高める指導法の研究にも取り組んでいます。

朝倉 智之 基礎理学療法学 助教



三次元動作解析を中心とした基礎的研究に取り組んでいます。授業では主に神経系疾患の理学療法、運動学実習などに関わっています。また附属病院リハビリテーション部にて、臨床に携わっています。

山路 雄彦 総合理学療法学 准教授



臨床では骨関節疾患を担当し、教育では補装具学、臨床運動学、生理学実習、臨床実習などを担当しています。生理的振戦などの生体信号解析や介護予防におけるリハ専門職の関わりを研究しています。

中澤 理恵 総合理学療法学 助教



症例基盤型実習 II などの運動器系の授業の実習を担当しています。成長期のスポーツ傷害予防に関する研究を中心に、中学サッカーなどスポーツ現場での理学療法サポートにも取り組んでいます。

菊地 千一郎 基礎作業療法学 教授



専門は臨床精神医学と認知神経科学です。よりよい脳機能検査法の開発を目指しています。精神医学では、国家試験に合格するだけではなく、臨床に役立つような講義を心がけています。

池澤 麻衣子 基礎作業療法学 助教



細胞内の膜小胞輸送に関するタンパク質について、その局在や機能の解明をテーマに、研究を進めています。主に、マウスの各臓器や培養細胞を用いて、実験を行っています。

十枝 はるか 心身障害作業療法学 講師



発達障害の早期支援の在り方について研究しています。発達障害をもつ子どもへ適切な保育・教育環境による発達支援を提供するような地域社会の構築に、作業療法士だからこそ貢献できると考えています。

保健学科 看護学専攻

二宮 更花子

- 3年生
- 栃木県白鷺大学足利高校富田キャンパス 出身

アットホームな雰囲気の中、整う学習環境

国際看護とチームワーク医療に魅力

中学時代から、人と関わる仕事がしたい、困った人を助けたいと思っていました。教員か医療関係者が迷いましたが、職業を調べていく中で、看護を勉強して保健師の資格を取得すれば学校の保健室でも働けること、またアメリカへの修学旅行で海外に興味を持ち、途上国で母子保健に関わりたと思ったことから看護の道を選びました。私が興味を持つチームワーク医療と国際看護に力を入れている、群大を志望しました。

患者さんを立体的にとらえるチームワーク実習

3年生になって、いよいよチームワーク実習が始まりました。先日、第1回目が終了。ひとつの症例について、チーム内で意見を出し合いました。理学療法専攻の人は筋肉のことや機能訓練のこと、薬学専攻は副作用や薬疹など、看護以外のいろいろな視点から患者さんを立体的にとらえることができ、質の良い医療提供には、ほかの職種との連携が欠かせないと思いました。大学の講義を受けるようになって、知識は取り入れるだけでは身にならない、自分の中に取り込んだものは消化し、アウトプットして初めて生きた学びになることを知りました。友だちと問題を出し合ったり、手技をし合ったりしながら、知識や技術が確実に自分のものになるよう心掛けています。

刺激が多く、学ぶ意識高まる病棟実習

実習では、学ぶ必要性をひしひしと感じました。初めての足浴や体位変換にドキドキ。とても緊張しました。先輩たちは、忙しく働きながらも患者さんと関わり合う時間を作るために効率よくケアを進めていました。スピーディーで正確なケアをするためにも、自分の緊張や不安を減らすためにも、患者さんから信頼される看護師になるためにも、もっと勉強しなければいけないし、勉強したいと思うようになりました。群大は、真面目で向上心のある学生が多いので、自然と自分の意識も高まります。附属病院が近くて実習にも行きやすい。看護学を勉強するのにこの上ない環境だと思います。



Time Table

	月	火	水	木	金
1					
2		医療生命倫理	国際看護学	成人看護学 方法論演習Ⅰ	災害看護学
3					
4	疫学		精神看護学 方法論	成人看護学 方法論演習Ⅱ	
lunch time	昼休み				
5	在宅看護学 方法論	地域保健医療 推進論	看護管理学	地域看護学 方法論Ⅲ	チームワーク 実習
6					
7	老年看護学 方法論演習	小児看護学 方法論演習	母性看護学 方法論演習	地域看護学 方法論演習Ⅰ	
8					
9			リハビリテーション 概論	地域看護学 方法論演習Ⅱ	助産学総論
10					
after school	アルバイト		アルバイト	サークル	アルバイト

保健学科 検査技術科学専攻

佐藤 勇輝

- 3年生
- 茨城県立竹園高等学校 出身

原理から学べる丁寧さ、
細胞検査士養成コースに魅力

国立大で稀少な細胞検査士養成コース

臨床検査技師という職業を知ったのは高校生のとき。検査技術学専攻の塾講師から聞いた大学の講義内容が実験的で面白そうだったのと、医師が治療方針を決める大事な要素である検査に関わる職種の重要性に魅かれました。群大を選んだのは、細胞の病理検査を専門とする細胞検査士を養成するコースがあったから。学生のうちに高度な専門知識を学べるチャンスがあるのは貴重ですし、自分のやる気次第で可能性を広げられる点に魅力を感じました。群馬には知人がいませんでしたが、1人の教授が数人の学生を入学から卒業まで指導してくれるチューター制があるので、不安は感じませんでした。

アナログな手法で検査の原理を理解

大学の講義で特に好きなのは、血液検査学。「検査」というと最先端の機械を使ってボタン一つで結果を出すイメージがありますが、群大では顕微鏡で赤血球や細胞を確認するアナログな方法も学びます。自分の手を動かして原理を学ぶことで、一つひとつ考え、確認しながら答えを出していくことができます。行き着くところは同じでも、その過程を理解しながら進めるのとそうでないのでは、結果の持つ意味が違ってくると思います。

放課後はサークル活動。ボランティアサークルで委員長を務めるようになって、1人でやるには限界があり、仲間の助けが欠かせないことを学びました。そういう意味では、サークルもチームワーク。人との関わりから学ぶことは多いと感じています。学科を超えた横のつながりもでき、世界がぐんと広がります。

大学院進学と大学病院勤務でスペシャリストを目指す

将来の夢は、大学病院の検査室で働くこと。検査の数が多いし、種類も多様。学んだことが十分に生かせ、検査の道を極められそうだったからです。卒業後は、大学院進学も目指しています。同じ敷地内に大学・大学院という教育機関も、附属病院もあるのは、群大ならではの強み。大きな夢が持てるのも、自分の可能性を生かすフィールドがあるのも、このような恵まれた環境を持つ群大ならではの良さだと思います。



Time Table

	月	火	水	木	金
1					
2			臨床化学Ⅱ	保健行政論	細胞診断学Ⅰ
3	臨床生体機能学 Ⅲ/Ⅳ	医療統計学演習	臨床化学実習Ⅰ	検査管理総論	R検査技術学
4					
lunch time	昼休み				
5			臨床生体機能学 Ⅴ	病態組織細胞学	チームワーク 実習
6	病原生物学				
7					
8	病原生物学 実習	生体防御学 実習	臨床生体機能学 実習	遺伝子検査学	
9					
10					
after school					

保健学科 理学療法専攻

千葉 朱莉

- 3年生
- 岩手県立一関第一高等学校 出身

縦横のつながりの強さで
楽しく充実のキャンパスライフ



スポーツリハビリに魅かれて群大を志望

中学生のころから夢は理学療法士。高校入学当初は他大学への進学を考えていましたが、2年生のとき、群大にスポーツリハビリがあると知ってから志望先を変更。決め手は、オープンキャンパスで感じた明るくて和気あいあいとした雰囲気でした。理学療法専攻は、1学年20人前後と少人数。同学年の仲が良いのはもちろんですが、縦のつながりが強く、1~4年までの全員が集まって飲んだり、BBQをしたり。実習のことやテストのこと、授業の受け方や進路のことなども相談に乗ってもらえて心強いし、群大に入って良かったと思います。

広がる活躍のフィールドに、夢も広がる

3年生になり、専門科目一色になりました。興味のあることを深く学べるのは本当に楽しいですね。好きな科目は、整形と神経内科。初めは画像を見ても何がどうなっているのか分かりませんが、見方を教わるうちに少しずつ症状が見えてくるようになりました。神経内科では、実例を挙げて話して下さるので分かりやすく、納得できます。今まで知らなかった脳と動作の結びつきも分かって、さらに面白くなってきました。

目下の悩みは将来の道。スポーツに関わりたと思って入学しましたが、学びが進むにつれて、整形全般にも関わりたいし、神経内科ももっと知りたい。子どもが好きなので小児リハビリにも興味があるし、親のことを考えると高齢者のQOL向上の役にも立ちたい、とやりたいことが増えてきてしまいました。それだけ理学療法の活躍のフィールドが広い証拠ですね。

海外留学がさらに世界を広げた

最近もう一つ、気になることがあります。それは海外。2年生のとき、タイへ研修に行く機会をいただき、舞台は世界にも広がっていることを実感しました。これも群大に入らなければ経験できなかったこと。群大を選択したことで、視野が広がりました。

理学療法士は、患者さんのその先の人生がよいものになるかどうかに関わる責任ある職業。素晴らしい人生のお手伝いができる喜びもあります。一人ひとりに真摯に向き合い、人に目を向け、信頼される理学療法士になりたいと思います。



Time Table

	月	火	水	木	金
1			臨床理学療法学Ⅲ	整形外科Ⅱ	
2					
3	臨床運動学			神経内科学Ⅱ	
4					
lunch time	昼休み				
5			臨床理学療法学Ⅰ	臨床理学療法学Ⅱ	
6					チームワーク実習
7			臨床理学療法学実習Ⅰ	臨床理学療法学実習Ⅱ	
8					
9					
10					
after school	アルバイト	部活	アルバイト	部活	

保健学科 作業療法専攻

井澤 孝泰

- 3年生
- 長野県長野西高等学校 出身

人を大切にする大学
目標となる先輩に囲まれる幸せ

人間性を高められる環境に魅かれて

将来性のある仕事に就きたいと考えていた高校時代、さまざまな職種を調べる中で知ったのが作業療法士。それまでリハビリに抱いていた概念がガラリと変わり、科学的かつ学術的、哲学的な面があれば心理的な要素もある作業療法士という職業に魅力を感じるようになりました。専門学校に進学する道もありましたが、私はあえて大学にこだわりました。社会から求められる作業療法士になるためには、単純に知識や技術を身につけるだけでなく、信念を持った人になることが大事だと感じたからです。オープンキャンパスに来て、信念を持ちながらも明るくて親しみやすい先輩たちに触発されました。先輩たちのような人になりたい、群大ならきっとなれると確信を持ちました。

先輩の真摯な姿勢で知った作業療法士の真価

今では群大に入って良かったとつくづく感じています。一般教養では、医学部以外の人たちと机を並べられるのがいいですね。興味のある心理学や法律も楽しく学べました。専門科目は少人数制で参加型。意見交換や発表の機会が多く、アクティブに学べるので身になります。講義の進め方から、群大は人を育てることを大切にしている大学だと思います。

2年生の見学実習もまたとても意義のあるものでした。リハビリに使う道具一つとっても、先輩に理由を尋ねると自分が考えていた何十倍もの深い答えが返ってきます。患者さんの身体や今後の暮らしなど、先のことまで考えて選ばれているのを目の当たりにして、患者さんを中心とした全体を広く見る重要性和共に、患者さんに対する愛情や、プロとしてのプライドを感じ、改めて先輩方に対する尊敬の念を強くしました。

先輩作業療法士の姿に重ねる自分の未来

将来の夢は、自分なりの信念を持って患者さんに寄り添える作業療法士になること。目標は、実習のときに出会った先輩方です。群大の大学院出身者も多く、大学院進学を考えるきっかけにもなりました。臨床で湧き上がった疑問を大学院の研究を通して明らかにしていきたいと思っています。常に現場と関わりたいながら学び続ける、群大はそれが叶えられる大学です。



Time Table

	月	火	水	木	金
1				整形外科Ⅱ	
2					
3	作業療法評価学実習		精神医学Ⅲ	神経内科学Ⅱ	身体障害作業治療Ⅰ
4					
lunch time	昼休み				
5	地域作業療法学概論・各論		日常生活活動学・実習	精神障害作業治療Ⅰ	
6					チームワーク実習
7	老年期障害作業治療Ⅰ	作業治療学実習		発達障害作業治療Ⅰ	
8					
9	総合能力評価学				
10					
after school		アルバイト			アルバイト



看護学専攻

群大で生き方を学び、人として大きく成長

佐々木 菜生 さん

●平成31年3月卒業
群馬大学医学部附属病院 看護師



憧れの看護師。先輩の姿に学ぶ毎日

小学生のころからの夢だった看護師になりました。配属は口腔外科と泌尿器の病棟。先輩から指導を仰ぎながら、担当する患者さんのケアにあたる毎日です。先輩方が患者さんと何気なく会話をしているように見えて、その中からケアに必要な情報や隠れた思いを汲み取っているのを知ってビックリ。大学の講義でもコミュニケーションの大切さを学んで理解しているつもりでしたが、実際の現場に出ると「医療に必要なコミュニケーションというのはこういうことなんだ」と意義の深さを覚えました。

社会人になって強まる責任感

社会人になって日は浅いですが、学生時代とは意識がガラリと変わりました。

大切な命をお預かりする看護師ですから、少しのミスも許されません。患者さんの様子を見極め、必要なことを考えながら最適なケアをするには、心に余裕を持って頭も体も動かせる必要があります。また、看護師の気持ちは患者さんに伝わってしまいますから、私自身の心と体を健康な状態に保つことも社会人としての役目だと思うようになりました。

仲間と励まし合って叶えた夢

看護を学べる学校はたくさんありますが、私が群大を選んだのはチームワーク医療に興味があったから。学生時代に専攻の違う学生同士でチームを組んで実習に行ったり、ワークを進めながら視点の違いに気づけたりしたのは有意義でした。

群大生は、メリハリをつけるのが上手

な人が多いです。芯が強く、志が高い仲間と触れ合えて、4年間頑張り続けて夢を叶えることができました。先生も素晴らしい方ばかり。単に知識を与えるだけでなく、答えそのものを教えるのではなく、方向性を示しながら光がある方へと誘導してくれる。その過程で勉強の仕方や資料の調べ方を学び、着眼点を鍛えられるようになりました。

群大は医学部以外の学部生とも知り合えるし、大学と病院が同じ敷地内にあるのもいい。本当に楽しい大学です。私は群大で生き方を学び、人として大きく成長できました。群大で得たことを大切にしながら先輩方を目標に、患者さんの小さな気持ちの変化も丁寧にすくい取れるような看護師になりたいと思います。

検査技術科学専攻

茂木 彩夏 さん

●平成26年3月卒業
アイロムグループ 株式会社エシック群馬統括部
治験コーディネーター



理学療法学専攻

鈴木 翔太 さん

●大学院保健学研究科博士前期課程 平成31年3月修了
医療法人一羊会 上武呼吸器内科病院 理学療法士



作業療法学専攻

手島 稜登 さん

●大学院保健学研究科博士後期課程 在学中
公益財団法人 老年病研究所附属病院 作業療法士



社会に出て生きる群大での学び

新薬が実際の薬として使われるために必要な臨床研究をする際、患者さん・医療機関・製薬会社の間に立って進行や調整を務める治験コーディネーターをしています。1人の患者さんに関わる期間は短くて2〜3カ月、5年以上になるケースもあります。やりがいは、患者さんから寄せられる「(治験を)やって良かった」という喜びの声。最初は硬かった表情が次第に和らぎ「茂木さんに会える日は明るい気持ちになるよ」と笑顔を見せてくださると心が弾むし、新しい治療で症状が改善されるのを目の当たりにすると、役に立てたうれしさを感じます。群大での学びは、社会人になって大きく花を開かせるのに役立っています。チーム

ワーク実習で他職種の仕事内容を理解し、チームとしてどう関わるかを考えるようになったこと。学生のうちに最先端の学びができたこと。基礎医学の知識があるのでプロトコルや検査値が読めること。出身地も年齢も異なる人と関わったことなど、群大で良かったと思うことばかりです。

社会人になってからも学びの毎日。論文を読んだりガイドラインを見たり勉強は欠かせませんが、群大で基礎を叩きこまれたから、すんなりと取り組みます。治験コーディネーターの8割は女性。女性が働くことに理解がある職種なので、私も先輩たちのように将来、家庭と仕事を両立させて、社会に貢献し続けたいと思っています。

著名な先生方、恵まれた環境のおすすめ大学

大学卒業後、大学院に進学。昼間は理学療法士として働き、夜は大学院で野球肘の予防について研究を進めました。群大の先生方の本当の偉大さを知ったのは、大学を卒業してから。学生時代は距離が近すぎたし、先生方も気さくな方ばかりなので気づけなかったり、論文もたくさん発表されたりするのを見て、世界で名の通った先生方に直接指導を受けられた幸せを実感しました。

働き始めて3年目。後輩からの質問にすんなり答えたり、患者さんが快方に向かったりするとうれしく、自らの成長も感じます。毎日が学びの連続ですが、自分が一つひとつ前進することで、患者さんにフィー

ドバックできることが増えると思うと気が引き締まります。夢は患者さんからも仲間からも「任せておけば安心」と信頼される理学療法士になること。同じ職場に目標となる先輩がいるのは、大きな励みになります。

群大は海外交流が盛んな大学。私は学部生のときにタイへ、修士のときにモンゴルに行く機会に恵まれました。現地で志を同じくする仲間が盛んに学ぶ姿に触発され、その後、何ごとにも取り組む姿勢が変わりました。私は決して外国語が得意なわけではありませんでした。「行ってみたい」という興味で手を挙げました。群大はこのように個人の意欲を汲んでくれるので、求める人にはたくさんの実りが得られるおすすめの大学だと思っています。

研究極めて、後身の知識に

昼間は病院で作業療法士、夜は大学院で研究をしています。病院では、脳卒中などの脳血管障害や骨折などの運動器障害を持つ患者さんのリハビリを担当。リハビリに関わる理学療法士、言語聴覚士と一緒に、どんなアプローチをしたら患者さんとご家族が望む形に近づけるかを相談しながらプログラムを組んでいます。定期的に医師、看護師、栄養士と一緒にカンファレンス。学生時代、チームワーク医療実習をしていたおかげで、どの職種がどんな目的を持って取り組んでいるかが分かるので、真意がつかみやすいですね。リハビリによって患者さんの状態が良くなって笑顔で退院される姿を見られることが一番のやりがいです。作業療法学は海外の方が進んでいて、日

本ではこれからの学問だと思っています。今よりもっと良い方法があるか知りたいので大学院に進学してから、意識して学会で発表をするようにしています。意見交換をしたり、批判されることもあります。新たな視点、違う道が発見できたと前向きにとらえています。

大学院に進学して、英語の論文に触れる機会が増えたことで、新しい治療からリハビリをスピーディに取り入れられるようになりました。今は、研究と臨床を同時にしていますが、将来は研究の道に進みたいと思っています。自分が質の高い研究をすることで、他の人の知識になったらいい。未知の分野を開拓していく面白さがあります。



バレーボール部(保健学科)

キャンパスライフをより豊かにするバラエティに富んだクラブ・サークル

運動部

El Bolos(ボウリング) / Et's(バスケットボール) / Get's(サッカー) / Let's Met's(野球) / Vit'z(ダブルダッチ) / 合気道部 / 弓道部(医学科) / 弓道部(保健学科) / 剣道部(医学部) / 硬式テニス部(医学部) / ゴルフ部(医学部) / サッカー部(医学部) / 柔道部 / 準硬式野球部(医学部) / 水泳部 / スキー部(医学部) / ソフトテニス部(医学部) / 卓球部(医学部) / バスケットボール部(医学部) / バドミントン部(医学部) / バレーボール部(医学部) / バレーボール部(保健学科) / フットサルサークル(医学部) / ラグビー部(医学部) / 陸上部(医学部) / ワンダーフォーゲル部



陸上部(医学部)



バスケットボール部(医学部)



準硬式野球部(医学部)



Vit'z(ダブルダッチ)

文化部

AAA☆Kids(ボランティア) / ELMO(グループ体験学習) / e ∞ gg(自主ゼミ) / Flow Orchestra / Fore-Bridge Orchestra (FBO) / FORS(国際医療ボランティアの会) / Guit's(アコースティックギター) / LEADS(ボランティア) / MD-PhD勉強会(ド学連) / origin(折紙研究会) / Pico(合唱) / Voice Cream(アカペラ) / 医学部★ダンスサークル(M★DC) / 囲碁将棋部 / 映画研究会 / エレクトーン部 / 軽音楽部(医学部) / 写真部(医学部) / でんでんむし(医学部、手話) / 天文部 / 東洋医学研究会 / ピアノ部 / 美術愛好会 / ビリヤード部 / ボードゲーム倶楽部 / マンドリンソサエティ / モダンジャズ研究会(医学部) / 野草を食べる会 / 夢のわたらせないろ号(ボランティア) / 前橋文学会



Flow Orchestra



前橋文学会



Guit's(アコースティックギター)



Flow Orchestra

COMMITTEE 学友会

学友会は、医学科及び保健学科の全学生により構成される組織です。年に2回「教職員との懇談会」を開催し、大学生活をより良いものとしていくため、大学施設に関すること、授業・カリキュラムに関すること等について意見交換を行っています。その他、新入生への大学生活に関するアドバイス、部活・サークルのとりまとめ等も行っていきます。

COMMITTEE 医学祭 実行委員会

2年に1度昭和キャンパスで開催される群馬大学医学祭は、学年・学科を超えた交流や大学周辺地域の方々との交流を目的とし、医学部ならではの様々なイベントが企画されます。



A 重粒子線医学センター
重粒子線によるがん治療を行っています。

B 生体情報ゲノムリソースセンター
遺伝子工学の中心である組換えDNAの実験・研究技術の普及と、専門研究者の教育・養成などを行う学内共同利用施設です。

C 刀城会館
医学部同窓会(刀城クラブ)の募金により建設された多目的施設です。緑にかこまれたキャンパスの南西にあり、学会、講演会、研修会、セミナー、入学・卒業行事などに利用されています。

D RI研究棟
放射性同位元素を利用して、ごく微量の血清中ホルモンを測定するラジオイムノアッセイ法などを行う施設です。



E 群馬大学総合情報メディアセンター図書館部門 医学図書館

医学図書館では、国内外の医学・医療系専門書13万冊と約3,600タイトルの学術雑誌を所蔵し、7,000タイトル以上の電子ジャーナルを利用できます。グループで相談しながら学習できるスペース「ラーニングcommons」、レポート作成や医学文献データベースの情報検索ができるパソコンコーナー、セミナー室もあります。閲覧室では、24時間利用ができるサービスを提供しています。
「良医養成のための体験的・実践的専門前教育」を支援するためのライブラリー「患者さんのこころ」を設置し、闘病記・介護記・ホスピス・医療事故・医療倫理関連の図書もあります。

F 生体調節研究所
内分泌、代謝学分野における国内唯一の基礎医学研究所です。生体調節系の制御機構や、その異常による疾患、特に糖尿病、肥満症など生活習慣病の成因・病態の解明を目指しています。
内分泌・代謝学共同研究拠点として、研究者コミュニティが要望する創出基盤技術・リソースを共同利用に供出し、高水準の研究成果を世界に向けて発信しています。

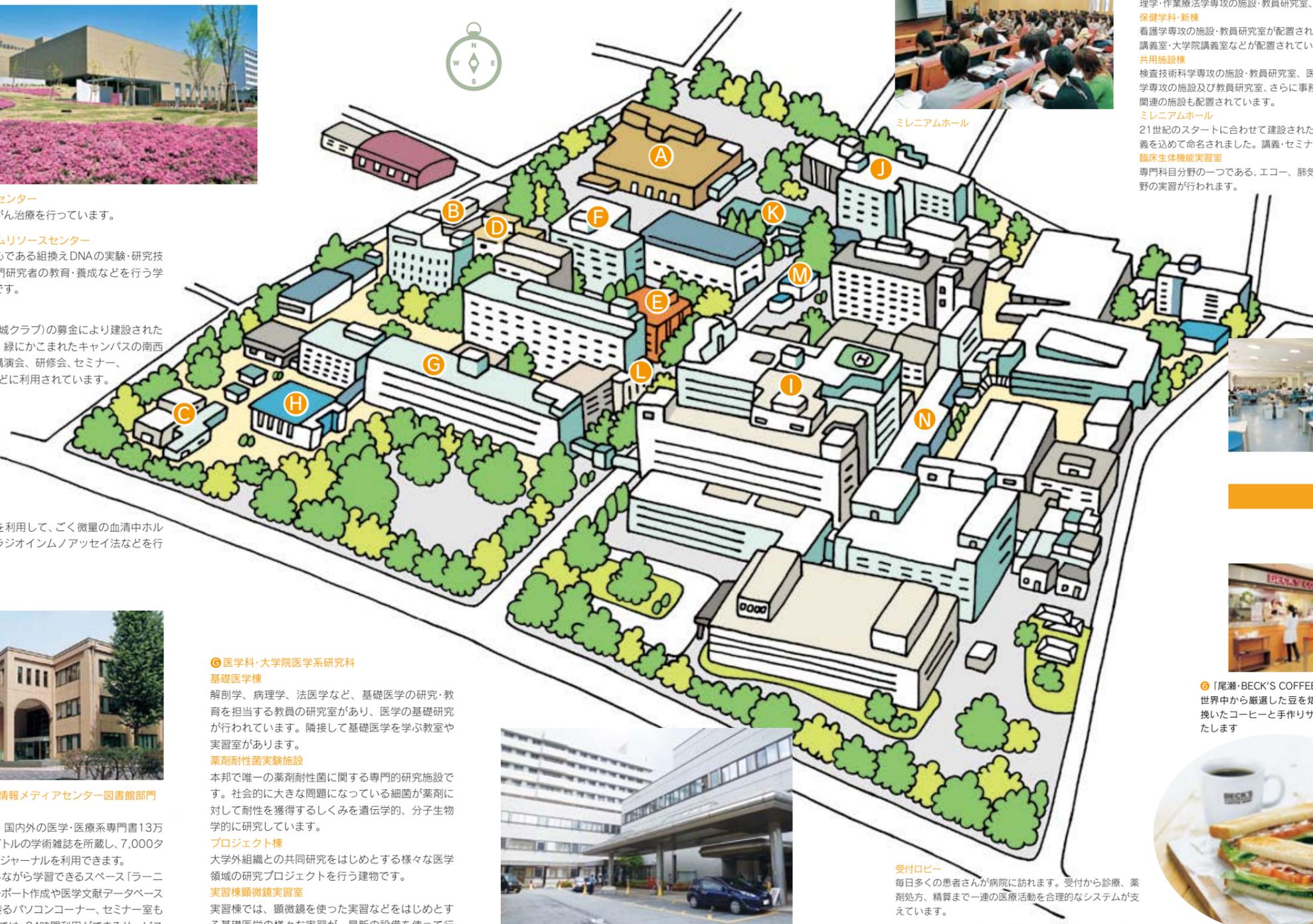


H 基礎講義棟
医学部の基礎系科目の授業が主に行われている講義棟です。

G 医学部・大学院医学系研究科 基礎医学棟
解剖学、病理学、法医学など、基礎医学の研究・教育を担当する教員の研究室があり、医学の基礎研究が行われています。隣接して基礎医学を学ぶ教室や実習室があります。
薬剤耐性菌実験施設
本邦で唯一の薬剤耐性菌に関する専門的研究施設です。社会的に大きな問題になっている細菌が薬剤に対して耐性を獲得するしくみを遺伝学的、分子生物学的に研究しています。
プロジェクト棟
大学外組織との共同研究をはじめとする様々な医学領域の研究プロジェクトを行う建物です。
実習棟顕微鏡実習室
実習棟では、顕微鏡を使った実習などをはじめとする基礎医学の様々な実習が、最新の設備を使って行われています。



I 群馬大学医学部附属病院
群馬大学医学部附属病院は、「患者さん中心の医療を推進する」という基本理念の基に、医療を受けられる皆様の権利を尊重しながら、最高最良の医療を提供することを目指しています。また、病状との闘いは患者さんと医療従事者との共同活動です。徹底したインフォームドコンセントに基づいて計画的な医療を進めています。
外科的な処置が必要になる患者さんも数多くいます。附属病院で最新の技術と機器を駆使して多く手術の実績を築いてきました。



J ミレニアムホール
保健学科
保健学科中央棟・西棟
理学・作業療法専攻の施設・教員研究室、大講義室などが配置されています。
保健学科・新棟
看護学専攻の施設・教員研究室が配置されています。また、ミレニアムホール、中講義室・大学院講義室などが配置されています。
共用施設棟
検査技術科学専攻の施設・教員研究室、医療基礎学の教員研究室、一部理学療法専攻の施設及び教員研究室、さらに事務部が配置されています。また、医学部関連の施設も配置されています。
ミレニアムホール
21世紀のスタートに合わせて建設されたことから、有為な医療人を輩出する意義を込めて命名されました。講義・セミナー・講演などに使われています。
臨床生体機能実習室
専門科目分野の一つである、エコー、肺気量測定装置、心電計など画像診断学分野の実習が行われます。



K 石井ホール
石井英男群馬大学名誉教授の名を冠した石井ホールは、医学部キャンパス内の質の高い交流・学習空間の集合体として計画され、コミュニケーション、学習、リラクゼーションの場となっています。



L カフェテリア
一日の大半を大学キャンパスで過ごす学生生活。不規則になりがちな食生活から寛ぎの時間も生協がバックアップ。
M 生協学生食堂
何と言っても「安い」「美味しい」「早い」が生協食堂のセールスポイント。もちろん栄養計算もばっちり。



M ゆめの子保育園
一般幼児と病児が対象で、本学教職員の利用を主としています。

N アメニティーモール・南病棟1階



6 「尾瀬・BECK'S COFFEE SHOP 群大病院店」
世界中から厳選した豆を焙煎し、お店で丁寧に挽いたコーヒーと手作りサンドイッチを提供いたします



2 カフェブランタン



3 「イタリア食堂Cinema(チネマ)」
チネマはイタリア語で映画のこと。映画を見るような気持ちで、やすらかな食事のひとときをごゆっくりとお過ごしいただけます。



4 コンビニエンスストア「ローソン」



イタリア食堂 Cinema(チネマ)

- 1 ヘアーサロン「La Juno(ラ・ジュノー)」
- 2 カフェテリア「ブランタン」
- 3 レストラン「イタリア食堂Cinema(チネマ)」
- 4 コンビニエンスストア「ローソン」
- 5 サービスセンター「アゼリア」
- 6 憩いの広場
「尾瀬・BECK'S COFFEE SHOP 群大病院店」
- 7 フラワーショップ「はな工房」
- 8 レストラン「水芭蕉」

Q 勉学環境で知りたいことは

Q チューター制度とはどのようなものですか？

A【医】【保】：群馬大学医学部では、入学と同時に学生一人ひとりに対して指導教員(チューター)を割り当てています。生活上での相談、学業や進路などの相談はもとより、学問への志や医療人としての心構えなど自由に聞くことができます。

Q 入学料・授業料免除、奨学金制度について教えてください。

A【医】【保】：学業成績が優秀であり、経済的な理由で学業の継続が困難な学生のために、一定の基準を満たしている場合、入学料・授業料免除制度があります。また、日本学生支援機構等の奨学金を取り扱っています。詳細は、群馬大学ホームページの「受験生のみなさまへ」(http://www.gunma-u.ac.jp/)をご覧ください。

Q クラブ・サークルやアルバイトと学業の両立はできますか？

A【医】【保】：所属するサークルやアルバイトの職種等によってかなり左右されると思われませんが、きちんとした自己管理と計画性を持っていれば、学業と両立させることは大抵の場合可能だと思います。現在、多くの先輩がサークルやアルバイトと学業を両立させて医学部で学んでいます。

Q 実家が遠いため1人暮らしをすることになるのですか？

A【医】【保】：1人暮らしをしている学生の大半は昭和キャンパス周辺にアパートを借りています。群馬大学生協同組合(http://www.univcoop.jp/gundai/)で紹介している物件をご覧いただくと様子が分かりますが、都心に比べると家賃は安めです。キャンパス周辺にはスーパーや飲食店が多く、生活を送るうえで非常に便利な環境といえます。

Q 研修施設はありますか？

A【医】【保】：群馬のリゾート地として知られる北軽井沢と草津にあります。「北軽井沢研修所」は、元京都大学名誉教授田辺元氏から寄贈された別荘を、5月上旬から10月中旬まで開所。「草津セミナーハウス」は、関東甲信越地区の国立大学が共同利用する合宿研修施設です。

Q 将来を見据えた注目の資格について

Q 看護学専攻では、看護師の他に保健師と助産師両方の資格を取得できますか？

A【保】：保健師コースと助産師コースの両方を履修することはできません。選抜試験を受け、どちらか一方を履修することになります。

また、編入学生は、保健師・助産師コースを履修することはできません。

Q 保健師コースについて教えてください。

A【保】：保健師は、乳幼児から高齢者まですべての人々を対象に、保健所や市町村保健センター、企業などの場において、健康教育や健康相談、健康づくり環境整備などの活動を行い、人々の健康の保持・増進を支援する国家資格です。

看護学専攻にこのコースがあり、3年次修了時に所定の科目の成績及び選考試験の成績を評価して、コース履修者(40名)を選抜します。コース履修者は、4年次にさらに保健師国家試験受験資格に必要なカリキュラムを履修します。

Q 助産師コースについて教えてください。

A【保】：助産師は、女性の妊娠、出産、産後の各期を通じて、サポート、ケア及び助言を行い、助産師の責任において出産を円滑に進め、新生児及び乳児のケアをするなど女性の性と生殖に関する生涯の健康を支えるために、女性とパートナーシップを持って活動していく国家資格です。

看護学専攻にこのコースがあり、3年次修了時に所定の科目の成績及び選考試験の成績を評価して、コース履修者(8名)を選抜します。コース履修者は、4年次にさらに助産師国家試験受験資格に必要なカリキュラムを履修します。

Q 養護教諭の免許が取得できるそうですか？

A【保】：保健師国家試験に合格し保健師免許を取得すると、教育職員免許法に定める所定の単位を大学で修得している場合には、申請するだけで養護教諭(2種)を取得することができます。

Q 衛生管理者の免許が取得できるそうですか？

A【保】：保健師国家試験に合格し保健師免許を取得すると、労働基準監督署に申請するだけで衛生管理者(第1種)を取得することができます。労働安全衛生法により、常時50人以上の労働者を使用する事業者は、専属の衛生管理者を選任しなければならないとされているので、保健

師と衛生管理者の資格があると、産業保健の仕事に就くときに役立ちます。

Q 細胞検査士コースについて教えてください。

A【保】：細胞検査士は、人の身体の細胞を顕微鏡で観察して、それが正常な細胞なのか、あるいは悪性の細胞なのかなどを調べます。この資格は、国家試験ではなく、学会の認定試験に合格すると得られます。その認定試験の受験資格を得られるコースが設置されているのは、国立大学法人では群馬大学、弘前大学、山口大学の3校だけです。

検査技術科学専攻にこのコースがあり、3年次になってから選択することができますが、人数枠(毎年5名程度)があるため、履修者は選抜試験で決めます。

Q その他

Q 理学療法士と作業療法士の違いが分かりにくいのですが。

A【保】：理学療法士とは、治療体操や運動、マッサージ・電気刺激・温熱などの物理的手段を用いて、運動機能の回復を目的とした治療を行う人のことです。病気やケガにより、日常生活に支障を来した方々に対して、起き上がり、立ち上がり、歩行などの基本的な動作能力の回復を図る、身体的なりハビリテーションに携わります。理学療法の対象となる方は、新生児から高齢者、プロスポーツ選手など幅広く、多方面での活躍が期待されます。

作業療法士とは、日常生活で行われる生活行為、家事、遊び、仕事などを治療手段として用い、障害を持つ人々や高齢者が身体や心の機能を回復させ、社会生活に参加することを支援します。大学では多岐にわたる活動の治療的な応用を学びます。最近では特別支援教育、介護予防、マネジメントの分野で注目され活躍の場が広がってきています。当専攻では作業活動の効果の研究に積極的に取り組んでいます。



北軽井沢研修所



草津セミナーハウス

Q 先輩たちの進路は？



■ 医師国家試験合格率推移

	群馬大学 (%)	全国 (%)
H31	95.3	92.4
H30	91.1	93.3
H29	94.2	91.8



	保健師 (%)		助産師 (%)		看護師 (%)		臨床検査技師 (%)		理学療法士 (%)		作業療法士 (%)	
	群馬大学	全国	群馬大学	全国	群馬大学	全国	群馬大学	全国	群馬大学	全国	群馬大学	全国
H31	97.5	88.1	100.0	99.9	98.6	94.7	97.2	86.5	100.0	92.8	94.4	80.0
H30	97.4	81.4	100.0	98.7	98.7	91.0	97.4	79.3	100.0	81.4	95.0	77.6
H29	100.0	90.8	87.5	93.0	96.3	88.5	95.1	78.7	100.0	90.3	89.5	83.7

Q 国家試験の合格状況を教えてください。

A【医】【保】：過去3年間の合格状況(新卒者)は以下のとおりです。

■ 医師国家試験受験者数と合格者数推移

	受験者数	合格者数
H31	107	102
H30	124	113
H29	120	113

Q 先輩たちの進路は？

Q 卒業後の進路について教えてください。

A【医】：医師国家試験に合格した人は、卒業後の2年間は大学病院や教育指定病院で臨床研修医として専門に偏らずに幅広く研修し、その後、

大学病院、一般市中病院、診療所、各種医療センターなどで専門領域のトレーニングを受けます。

なお、群馬大学の研修医になると、大学病院と市中病院を利用し、それぞれの長所を十分に活かし、各人の希望に沿った研修が可能です。また、大学病院では2年間の初期臨床研修修了

後は、シニアレジデント制度を設けており、初期・後期研修の連続性を考慮した研修システムを構築しています。

A【保】：保健学科卒業後、多くの学生は下記のように県内外の医療関連施設等で第一線の専門職として働いています。

■ 卒業後の進路〈平成30年度〉

■ 看護学専攻 進路概要：卒業数77名



【就職先】 群馬大学医学部附属病院、前橋赤十字病院、東京大学医学部附属病院、上尾中央総合病院、自治医科大学附属病院、伊勢崎市民病院、国立成育医療研究センター、前橋市、慶應義塾大学病院、埼玉県立病院、埼玉医科大学病院、虎の門病院、群馬県済生会前橋病院、熊谷生協病院、桐生厚生総合病院、玉村町、鎌ヶ谷総合病院、岡谷市

■ 理学療法学専攻 進路概要：卒業数21名



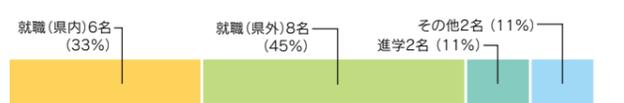
【就職先】 上牧温泉病院、沼田脳神経外科循環器科病院、JA長野厚生連佐久総合病院、わかば病院、医療法人 一成会 さいたま記念病院、茨木医誠会病院、群馬中央病院、佐久総合病院、JAとりで総合医療センター、社会医療法人財団慈泉会 相澤病院、堀江病院、新上三川病院、諏訪赤十字病院、前橋協立病院、前橋赤十字病院、北柏リハビリ総合病院、埼玉よりい病院

■ 検査技術科学専攻 進路概要：卒業数41名



【就職先】 伊勢崎市民病院、一般財団法人 とちぎメディカルセンター、群馬県立病院レジデント、戸田中央医科グループ、医療法人社団 KNI 北原国際病院、一般財団法人 芙蓉協会 聖隷沼津病院、茨城県職員、越谷市立病院、(株)エスアールアイ、さいたま赤十字病院、慶應義塾大学病院、龍ヶ崎済生会病院、公益財団法人 老年病研究所附属病院、行田総合病院、国際医療福祉大学成田病院、社会医療法人友愛会 豊見城中央病院、前橋赤十字病院

■ 作業療法学専攻 進路概要：卒業数18名



【就職先】 上尾中央総合病院、療育センターきぼう、富山県リハビリテーション病院、前橋市子ども発達支援センター、西尾市民病院、新久喜総合病院、松本市役所、埼玉セントラル病院、群馬中央病院、群馬中央脳神経外科病院、わかば病院、はんなさわらび保育園、たすく株式会社

群馬大学医学部の沿革 History of Gunma University Faculty of Medicine

- | | |
|---|--|
| 昭和18年 4月 ● 前橋医学専門学校設置 | 平成15年 4月 ● 大学院医学系研究科医科学専攻に講座設置
同保健学専攻博士(後期)課程設置 |
| 昭和23年 2月 ● 前橋医科大学設置 | 平成19年 4月 ● 大学院医学系研究科生命医科学専攻(修士課程)設置 |
| 昭和24年 5月 ● 群馬大学医学部となる | 平成23年 4月 ● 大学院保健学研究科設置 |
| 昭和30年 7月 ● 群馬大学大学院医学研究科(博士課程)設置 | |
| 平成 8年10月 ● 群馬大学医学部保健学科設置 | |
| 平成13年 4月 ● 大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称し、保健学専攻(修士課程)設置 | |

受験準備・入学試験

Q 過去問題の入手方法は？

A 医学科・保健学科とも過去の試験問題を公開しています。請求方法等、詳細については、
・医学科：医学科ホームページ (http://www.med.gunma-u.ac.jp/) ・保健学科：保健学科ホームページ (http://www.health.gunma-u.ac.jp/) をご確認ください。

Q キャンパス見学は？

A 土日・祝祭日以外は原則的に見学可能ですが、必ず事前に学務課入学試験係へ電話等でご確認ください。見学する場合は、学務課入学試験係へお越しください。資料のお渡しや、ご質問にお答えします。
なお、例年実施しているオープンキャンパスに参加していただくと、本学教員や在学生の話を聞くことができます。
オープンキャンパスについては、裏表紙をご参照ください。

Q 授業見学の申込み方法は？

A 医学部保健学科では、高校生が自分の将来を考え、進路決定の際の参考のために、年間を通じて授業・実習の一部を見学できる制度があります。見学を希望する方は、授業見学申込書を学務課入学試験係まで送付してください。授業科目一覧、授業見学申込書は下記のURLからダウンロード可能です。
(http://www.health.gunma-u.ac.jp/admissions/med/inspection.html)

■ キャンパス・授業見学連絡先

群馬大学昭和地区事務部学務課入学試験係
〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22
TEL：027-220-8910 (医学科) 027-220-8909 (保健学科)

Q 出願するにあたり年齢制限(上限)はありますか？

A 医学科・保健学科とも年齢制限(上限)はありません。いずれの入学試験においても年齢はもちろん、性別、出身地、出身学校等の区別なく、全く同じ条件のもとで選抜を行っています。

学生生活

Q 学生生活支援は？

A 【学生教育研究災害傷害保険】
学生が正課中、学校行事中、通学中、学校施設にいる間または課外活動中において、不慮の災害事故により傷害を受けた場合の補償救済制度です。

A 【学生寮】
本学には、前橋地区に養心寮(収容人員:男子74名・女子62名、全室個室)があります。経費は、寄宿料が月額4,300円で、他に自治会費(2,400円/半期)、光熱水費(約6,000円/月)の実費が必要です。

A 【学生国際交流】
医学部同窓会や後援会からの援助等により、インドネシア共和国国立パジャラン大学、タイ王国立チェンマイ大学、コロンビア共和国のサハ大学、モンゴル国立医科学大学、アメリカ合衆国州立ワシントン大学、アメリカ合衆国のピュージェットサウンド大学等との交流プログラムがあり、毎

Q 学費は？

A 入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合は、新授業料を適用します。毎年2期(前期:4月、後期:10月)に分けて徴収します。

入 学 料	282,000円
授 業 料	535,800円(年額)

Q その他必要経費は？

入学時に必要な経費(予定)	金額
刀城クラブ・同窓会終身会費	170,000円
後援会費(共用試験等受験料を含む)	100,000円(90,000円)
学生教育研究災害傷害保険料	4,800円(4,130円)
学研災付帯賠償責任保険料	3,000円(2,500円)
医療費補助会費	12,000円
荒牧クラブ・サークル協議会費	4,000円
学友会費	9,500円(8,000円)
テキスト代など	年間約 150,000円程度

※かつこ内の金額は、編入学した場合

■ 保健学科

入学時に必要な経費(予定)	金額
同窓会終身会費	40,000円
後援会費	40,000円(20,000円)
学生教育研究災害傷害保険料	3,370円(1,790円)
学研災付帯賠償責任保険料	2,000円(1,000円)
荒牧クラブ・サークル協議会費	4,000円
学友会費	4,000円(2,000円)
学外実習交通費	看護・検査技術科学専攻では一部の実習が学外で行われ、旅費の負担が必要です。 理学・作業療法専攻では臨床実習の大半が学外施設で行われ、旅費や場合により宿泊費等の費用が必要となります。
テキスト代など	年間 50,000～70,000円程度(専攻による)

※かつこ内の金額は、編入学した場合

▶ 予防接種

医学部学生は患者さん及び本人の感染防止のため、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎・結核等の予防接種・感染症検査を受ける必要があります。なお、検査・ワクチン接種にかかる費用は自費となります。

年3名～7名程度の学生を派遣、あるいは受け入れています。
このほかに、全学の留学プログラムや留学生との交流行事等も実施されています。



入学者選抜

■ 平成31年度入学者選抜実施状況

■ 医学科

	推薦	前期日程	帰国生	私費外国人留学生
募集人員	35	73	若干名	若干名
志願者数	120	279	0	0
受験者数	120	200	0	0
合格者数	35	76	0	0
入学者数	35	73	0	0

※合格者数には追加合格者を含みます。

■ 保健学科

	看護					検査					理学					作業								
	推薦	帰国生	社会人	前期日程	後期日程	私費外国人留学生	推薦	帰国生	社会人	前期日程	後期日程	私費外国人留学生	推薦	帰国生	社会人	前期日程	後期日程	私費外国人留学生	推薦	帰国生	社会人	前期日程	後期日程	私費外国人留学生
募集人員	30	若干名	若干名	33	17	若干名	9	若干名	若干名	22	9	若干名	8	若干名	若干名	8	4	若干名	8	若干名	若干名	8	4	若干名
志願者数	79	0	1	76	117	0	46	1	1	55	122	0	46	0	0	24	52	0	19	0	0	31	67	0
受験者数	79	0	1	71	48	0	46	1	1	53	48	0	46	0	0	24	27	0	19	0	0	31	37	0
合格者数	30	0	0	38	21	0	11	0	0	22	12	0	9	0	0	8	5	0	8	0	0	8	5	0
入学者数	30	0	0	33	18	0	11	0	0	22	8	0	9	0	0	8	4	0	8	0	0	8	4	0

医学科の教育ポリシー

■ 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)
～このような人材を求めています～

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることをふまえ、医学生として、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって自己研鑽に励むことができる人

1. 豊かな感受性、奉仕の精神を備え、医師としてふさわしい資質を身に付けることを目指して、不断の努力を積み重ねられる人
 2. 医療、医学研究、医学教育もしくは医療行政などの分野において、社会に貢献することへの志と強い信念を持っている人
 3. 本学科の教育内容を理解するために必要な総合的基礎学力を十分に備えている人
- <入学に際し必要な基礎学力>
特に日常的な学習が十分に行われていることが望ま

しいのは、国語と英語である。専門科目を学ぶために必要となるのは、数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bであり、理科では、受験科目にかかわらず、物理(物理基礎を含む)、化学(化学基礎を含む)、生物(生物基礎を含む)である。

■ 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
～このような教育を行います～

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって生涯自己研鑽する力が付く教育

1. 自分を振り返り、他者を思いやる心が育ち、コミュニケーションを通して相互理解を図る態度が身に付く教育
2. 自然科学、医学、医療、人間と社会に関わる知を習得し、それを実践で活かす力が身に付く教育
3. 新たな課題にも対応できる問題解決能力が身に付き、リサーチマインドが育つ教育
4. 生涯にわたって社会貢献と自己研鑽に努める意欲が

保健学科の教育ポリシー

■ 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)
～このような人材を求めています～

<人材育成の目標>

1. 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
2. 本学科での学修を通して、学士(看護学・保健学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
3. 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
4. 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
5. 看護師・助産師・保健師、臨床検査技師・細胞検査士、理学療法士、作業療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

1. 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
 2. 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
 3. 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
 4. 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
 5. 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。
- <入学に際し必要な基礎学力>
1. 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

■ 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
～このような教育を行います～

知性と行動力を備えた人間性豊かな保健医療人材の育成を目指し、次のような教育を行います。

1. 全人的医療の担い手としての人間性の涵養と、専攻分野に必要な基礎力の育成を図る教育
2. 専門教育では基礎から臨床に亘る階層的知識の積み上げを図るとともに、先端の保健医療の学習にも配

■ 募集要項の発表時期

志願者の利便性向上及び入試業務の効率化等を図るため、一般入試、特別入試(推薦入試、帰国生・社会人入試、私費外国人留学生入試)でインターネット出願を導入しています。

募集要項の種別	発表時期(予定)	備考
学生募集要項(一般入試)	10月上旬	ホームページのみ
推薦入試学生募集要項	9月中旬	
帰国生・社会人入試学生募集要項		
私費外国人留学生入試学生募集要項		

育つ教育

■ 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)
～このような人材を育てます～
所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。
医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって生涯自己研鑽を続けることができる者

1. 医師にふさわしい倫理観と責任感を有し、医療チームの中で医師として適切な行動をとることができる者
2. 医師、医学研究者、医学教育者又は医療行政担当者となるために必要な知識を身に付けるとともに、新たな課題にも対応できる問題解決能力を修得した者
3. 医学知識に裏打ちされた臨床と研究の能力を修得し、患者により良い医療を提供する能力と、医学や医療の発展に貢献する意欲を備えた者

慮する教育

3. 保健医療の担い手としての主体的思考・行動力と豊かな感性を持つ人材育成を図る教育
4. チーム医療の担い手としての意識と、そこで必要な能力の育成を図る教育
5. 保健医療の諸課題に対応できる地域的視点と国際的視野を持つ人材育成を図る教育

■ 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)
～このような人材を育てます～
所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得し、各専攻のディプロマ・ポリシーが規定する学識と能力を持つ次のような者に学士の学位を授与します。

1. 保健医療の中核を担う専門職業人となるために必要な知識と技術を備え、人間の尊厳を尊ぶ心を持つ者
2. 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させてゆく意欲と自己開発力を持つ者
3. チーム医療を担う自覚を有し、関係する人々との相互理解と円滑な協働関係が築ける者
4. 保健医療の諸課題に対し、多面的視点からの柔軟な思考、的確な判断と対応ができる者

■ 対象：高校生・中学生・保護者等

医学部オープンキャンパス
(昭和キャンパス)

群馬大学オープンキャンパス「GU' DAY」
(荒牧キャンパス)

開催日 **7月25日(木)** 医学科
8月9日(金) 保健学科

開催日 **7月6日(土)**
8月16日(金)

※詳細やお申込みは、群馬大学ホームページ <http://www.gunma-u.ac.jp/> をご確認ください。

群馬大学

医学部(医学科・保健学科)

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39番地22号
TEL.027-220-7111(代)

■ 入学に関するお問い合わせ
TEL.027-220-8908・8909・8910

■ 医学科
 <http://www.med.gunma-u.ac.jp/>

■ 保健学科
 <http://www.health.gunma-u.ac.jp/>

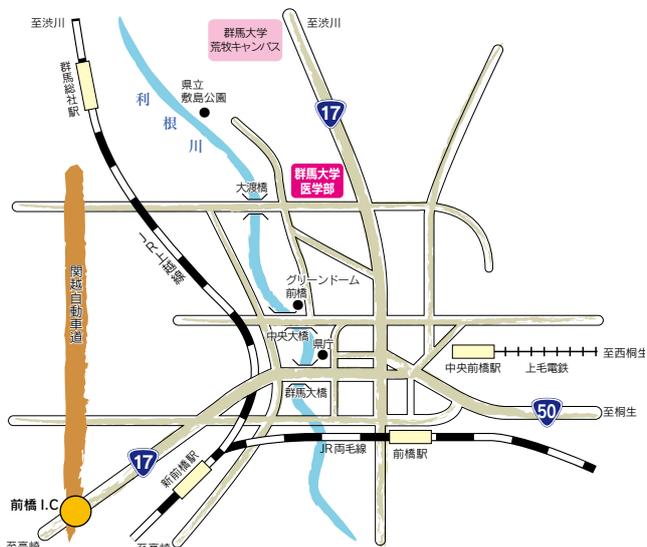
LINE、Twitterでも群馬大学の入試情報等を配信中！



https://page.line.me/gunma_univ_pr



http://twitter.com/gunma_uni_ad



- [前橋駅から] 渋川駅(小児医療センター)行バス乗車→群大病院入口下車 約13分 徒歩6分
- [前橋駅から] 群大病院行バス乗車→群大病院下車 約15分
- [渋川駅から] 前橋駅行バス乗車→群大病院入口下車 約30分 徒歩6分